



Title	インドの婚姻規制
Author(s)	甲田, 和衛
Citation	大阪大学文学部紀要. 1972, 16, p. 57-160
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/5671">https://hdl.handle.net/11094/5671</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# インドの婚姻規制

甲 田 和 衛



# インドの婚姻規制

## 目 次

はじめに	(iii)
I Bengalese 村落における cousin-marriage	(7)
II Gujarat のムスリム村落	(27)
III Canarese 村落における sister's daughter marriage	(53)
IV Andhra Pradesh のヒンドゥ村落	(77)
おわりに	(99)

# Marriage Regulations in India

Kazue KODA

## Contents

Preface .....	(iii)
I Cousin Marriage in a Bengalese Village .....	(7)
II Muslim Community in Gujarat .....	(27)
III Sister's Daughter Marriage in a Canarese Village .....	(53)
IV Hindu Community in Andhra Pradesh.....	(77)
Conclusion .....	(99)

## はじめに

本稿の標題「インドの婚姻規制」とは、正確には「イトコ婚 *cousin marriage* と ZD 婚 *sister's daughter marriage*—インド・パキスタンのデータ」の意味である。なによりも、筆者は“Himalayas から Vindhyas まで”といわれる北インドの村落を見てはいない。北インドの婚姻規制をのぞいては、論稿 III, 「Canarese 村落の *sister's daughter marriage*」に少しくふれたように、インドの婚姻規制を語ることはできないからである。

本稿の構成は、図 I にしめた 4 地点の調査からなっている。I 「Bengalese 村落における *cousin marriage*」, '65年調査, 東ベンガル, Comilla 近郊, 1 世帯のヒンドゥをのぞき全世帯ムスリムの Kalikapur, II 「Gujarat のムスリム村落」, Baroda 近郊, Anti 村, '67年調査, 全村の75%がムスリム, 残余の *backward caste* の人々はムスリムに雇傭されている農業労働者, III 「Canarese 村落の *sister's daughter marriage*」, '66年調査, Mysore 州, Mandya 近郊, Hullenahalli, たまたま Kalikapur と逆に, 1 世帯のムスリムをのぞき全村ヒンドゥの村落, IV 「Andhra Pradesh のヒンドゥ村落」, Guntur 近郊, Vedullapalli, '67年調査, Anti と対比して, 全村88%がヒンドゥ, *minority* としてのムスリムはこれらヒンドゥの雇傭労働者の位置にある。

ことわるまでもなく, Kalikapur では Bengali, Anti では Gujarati, Hullenahalli では Kannada, Vedullapalli では Telugu が話されている。筆者はいずれの言葉も解さず, すべて乏しい筆者の英語による二重通訳の調査である。いずれかといえば, イトコ婚と ZD 婚についての *marriage statistics* の入手を目標としたが, それは二重の逃避となっている。1 つはさきの言語の障壁であり, 他はよく指摘されるように, インドにおけるデータ収集の困難に屈せざるをえなかったからである。

調査地域からいえば, インドの北と南をふくんでいる。本稿はそれをムスリムとヒンドゥの村々に置換えている。すでにふれたように, 北と南の問題をのぞくばかりでなく, こゝでムスリムとヒンドゥの婚姻規制を対比する意図をもっているわけではない。データ収集における逃避を重ねながらも, 筆者はイトコ婚や ZD 婚への統計的方法の適用の問題を志向する。例示すれば, J.P. Gilbert, E.A. Hammel<sup>1)</sup> や H. Goldberg<sup>2)</sup> にみられる *simulation model* の方向である。その方向で, 日本のイトコ婚について, 筆者も若干の分析<sup>3)</sup> を加えてきた。この意味で, 本稿は“ヒンドゥとムスリム”の問題にかゝりあってはいない。ヒンドゥとムスリムのそれぞれの婚姻規制についてのスケッチであり, その統計的分析の *coup d'essai* にとどまっている。イトコ婚や ZD 婚を通して婚姻規制の *simulation model* が, 今後どの程度, 親族の問題—the patterned succession of the generation—を解く鍵になりうるかどうかは, また別の大きな課題である。

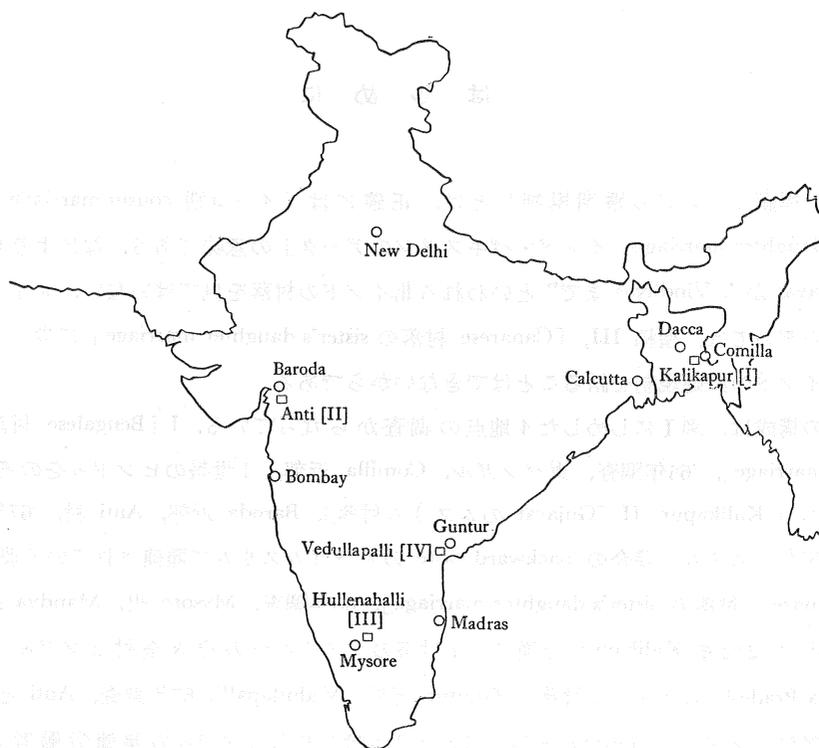


図 1

本稿の4調査<sup>4)</sup>ともすべて大阪大学インド・東南アジア研究センターからの財政的援助によって実施されたものである。とくに論稿 I については、さきにセンター報告「特集東ベンガル」に「ムスリム村落における cousin marriage」<sup>5)</sup>として発表、今回、若干の加筆の上、こゝに加えたものである。そして、II と IV については文部省科学研究費海外調査費によっておこなわれた。各調査ともに、あとがきに誌したように、それぞれ、現地関係者各位の御支援があって、はじめて完了しえたものである。こゝに誌して心からの謝意を表したい。

- 1) J.P. Gilbert and E.A. Hammel, "Computer Simulation and Analysis of Problems in Kinship and Social Structure," *American Anthropologist*, 68 (1966), 71-93.
- 2) H. Goldberg, "FBD Marriage and Demography among Tripolitanian Jews in Israel," *Southwestern Journal of Anthropology*, 23 (1967), 176-191.
- 3) 拙稿「山村のイトコ婚—岐阜県徳山村門入」喜多野清一博士古稀記念論文集「村落構造と親族組織」(刊行準備中)
- 4) 調査の概略については、拙稿「インド・東パキスタン調査」小浜基次教授退官記念最終講義・記念講演会集, 1968, 73-76.
- 5) インド・東南アジア研究センター報告, 1966「特集東ベンガル」大阪大学, 1966, 59-80.

## Preface

The present paper is a compilation of the findings through the survey into India and East Pakistan for getting marriage statistics mainly on cousin marriage and sister's daughter marriage. The field survey was carried out in the following areas from 1965 to '67.

- I "Cousin Marriage in a Bengalese Village"; a survey made in '65 in East Pakistan in the suburbs of Comilla at Kalikapur which is composed of all Muslim families except a Hindu.
- II "Muslim Community in Gujarat"; '67 year's survey at Anti in Gujarat State in the suburbs of Baroda. Muslims occupy 75% of the village, while the remaining people of backward caste are agricultural workers under the employment of Muslims.
- III "Sister's Daughter Marriage in a Canarese Village"; '66's survey at Hullenahalli near Mandya in Mysore State. Excepting a Muslim family, all the families of the village are Hindus, which contrasts with Kalikapur.
- IV "Hindu Community in Andhra Pradesh"; The survey was made at Vedullapalli near Guntur in Andhra Pradesh State in '67. In contrast with the case of Anti, Hindu occupies 88% of the village population and this time, the minority Muslim were employed by the Hindu as the agricultural laborers.

On field-working, the writer had often encountered difficulties peculiar to the rural areas of India in collecting source materials, because of linguistical troubles at the interviews with the villagers. Therefore, it cannot be said that the original purpose was fully effected. But as for "Marriage Regulations in India", the writer is not immediately interested in making such big problems clear as the comparison between Hindu and Muslim, or the difference of kinship patterns between those in northern India and southern India. These problems are considered as the kind to be attacked after such is developed as a simulation model on "marriage rule" out of marriage statistics on cousin marriage and sister's daughter marriage. The writer believes that though imperfect, relative necessary source materials are in hand and particularly the way was found out for building some models of sister's daughter marriage.



## I Bengalese 村落における cousin marriage



## 1

南 Kalikapur は東パキスタン, Comilla の南, 約 5 マイルに位置するムスリムの農村である。東パキスタン, '61年センサス<sup>1)</sup>によれば, 総世帯数132戸, 人口788, 男433, 女355である。'65年1月の現地調査によれば, 総世帯数104, そのうち3戸はすでに村外に転出, 1世帯が調査を拒否, 世帯および人口数は表1のとおりである。この世帯数の減少は, i) '61年以降の Comilla その他近郊都市への人口流出と考えられるが, ii) センサスの数字自体, その人口の性比からみてもかなり疑点がある。iii) 同時に, 以下にふれるように, joint family と世帯とをめぐる数え方の問題でもある。

表 1

family title	世帯数	男	女	T	1世帯当り平均
Mir	17	39	40	79	
Kazi	30	76	79	155	
Pathan	6	12	17	29	
Mazumder	12	34	32	66	
st	65	161	168	329	5.06
non-titled	34	97	102	199	5.85
Hindu	1	4	4	8	
T	100	262	274	536	5.36

101世帯のうちただ1世帯がヒンドゥである。それは3兄弟の夫婦とその子供達からなる joint family であり, すでに死亡した両親の兄弟達は, 現在, インドに居住, Kalikapur のかれらの生活はきわめて孤立したものである。しかし, Kalikapur が古くからヒンドゥの影響を受けていたことは, 村の中心の池辺に, 半壊のままそびえているパゴダに偲ぶことができる(写2)。'47年の分離を境として, Camilla (人口約6万) のヒンドゥ対ムスリムの人口比は, ほぼ7:3から2:8に逆転したといわれている。

99世帯のムスリムの家族は, 4つの family title, Mir, Kazi, Pathan, Mazumder と non-titled family とにわかれる。それぞれの居住位置は図1のごとくである。まず family title とはなにかが問題である。family title を, ムスリム社会固有の——たとえば Lebanon における “the Learned Family”<sup>2)</sup> に該当する family title と理解するには, Kalikapur のばあい, Pathan あるいは Mir をのぞいて, local family title にすぎない。このような東ベンガルの family title group の形成を, ヒンドゥの影響として, ムスリム社会にも派生したカーストあるいはその擬制と考えるかどうか<sup>3)</sup>。カーストといわないまでも, 1つの社会階層として理解することも可能である。<sup>4)</sup> Kalikapur のばあい, のちにみるように, たしかにそれは1つの主として経済的階層を形成しているということではある。しかし, それは, 家族群間に結果として形成された

階層であって、カーストと title を結びつけるものは存在しない。カーストと title とが結びついていると考えられる地域——たとえば Gujarat<sup>5)</sup>——におけるムスリム社会は、ムスリムとしての特質を——その結婚の形式において——保っているといえるかどうか。

これらの family title group は、patronymic group として、その名のしめすとおりに、それぞれの家族群である。図 1 にみるように、それぞれの title group は、それぞれのモスクをもち、その維持、管理を共同にする。さらに、耕地は共有しないが、農作業はグループ内で共同するものが多い。しかし、現在の東ベンガル農村家族を joint family あるいはその崩壊過程と指摘するだけでは、family title の意味をとらえるものではない。

本稿は、これらの family title group を、それぞれの家族群とのみ規定し、これらの家族群内と、家族群間における通婚関係、とくにそこにふくまれるムスリムとしての cousin marriage の形式を通して、これらの家族群としての family title group の意味をあきらかにすることを目的とする。そして、東ベンガルのムスリムの family title group が、カーストと結びついた Gujarat のばあい、あるいは西パキスタンの Punjab<sup>6)</sup>、さらには Turkey<sup>7)</sup> におけるそれらと、どのような関連で理解されるべきかを問題としたい。

## 2

Kalikapur における family title group の各家族数は表 2 のごとくである。各グループは、Pathan をのぞいて、系譜関係から、Mir は M<sup>1</sup> と M<sup>2</sup> に、Kazi は K<sup>1</sup> と K<sup>2</sup> に、Mazumder は MA<sup>1</sup>、MA<sup>2</sup>、MA<sup>3</sup> のそれぞれのグループにわかれる。non-titled group の 34 世帯は、11 の家族群にわかれている。

いま、99 世帯のうちに、みいだされた配偶関係総数 464 事例（各世帯主について、男系をたどり 5 世代のうちにふくまれるものを可能なかぎり面接、同一人の再婚以上、2 人の妻をもつもの 1 例、すべて事例 1 と数える）について、titled group 別に、村内婚、（村内婚について

表 2

family title		家 族 数	
Mir	M <sup>1</sup>	9	17
	M <sup>2</sup>	8	
Kazi	K <sup>1</sup>	27	30
	K <sup>2</sup>	3	
Pathan			6
Mazumder	MA <sup>1</sup>	6	12
	MA <sup>2</sup>	1	
	MA <sup>3</sup>	5	
Non-title			34

表 3

title	Mir	Kazi	Pathan	Mazumder	小 計	non-titled	計
村 内	12 (16.2)	11 (9.7)	2 (6.5)	12 (19.0)	37 (13.2)	11 (7.1)	48 (10.4)
村 外 婚入	31	48	15	31	125	97	222
村 外 婚出	31	54	16	20	121	73	194
小 計	62 (83.8)	102 (90.3)	31 (93.5)	51 (81.0)	244 (86.8)	170 (92.9)	416 (89.6)
計	74	113	33	63	283	181	464

表 4

単位：マイル

世 代	Mir	Kazi	Pathan	Mazumder	小 計	non-titled
- 1 ~	3.00	11.20	4.06	5.50	5.94	3.10
0	6.17	11.59	4.58	5.93	7.07	4.55
+ 1 ~	8.38	12.50	5.38	5.08	7.84	5.86

は、title 内と title 間の比較のため、すべて婚入の数字としてとりあつかうこととする) 村外との婚出入別をとりあげると、表3のごとくなる。titled group と non-titled group とは、村外との婚出入において、non-titled group にいく分か村外との通婚が多い。そして titled group のうちにあっては、Mir と Mazumder の group に村内婚の率が高いことがみられる。村外との通婚416事例について、1つの指標として、通婚の平均距離を、title 別、世代別にみれば、表4のとおりである。全体として、通婚の範囲は近時拡大してきていることがみられるが、むしろ、のちにふれるように、Kazi group における村外婚への傾向が、その平均距離に、他の group に比して、きわだって遠いことにしめされている。non-titled group に村外婚が多いとしても、その通婚の範囲はきわめて限定された地域にとどまっている。

これらの配偶関係総数464事例のうちには、54事例(配偶関係総数と同じく、1人の再婚以上すべてその都度1と数える)の cousin marriage (第1, 第2および第3いとこをふくむ)がふくまれている。すなわち全体の11.6%が cousin marriage である。いま Pathan のグループ、6世帯、配偶関係総数33を例にとって、cousin marriage をみれば、図2のごとくである。6世帯のうち、FBD, FZS, MZD の第1いとこの事例がそれぞれ1, FFZSD の第2いとこの事例が1, そして第2いとこの孫、FFBDDSD が1例である。図2を例にすれば、B. A. Pathan は MZD と結婚し、その長男、M. A. Pathan は FFZSD と結婚する。このような cousin marriage が、どのような原則によっておこなわれているかについては、のちにふれるように、村のひとびとはきわめて素朴な考え方しかもちあわせていない。そこではムスリムとして、いとこが絶好の結婚相手として、まず、最初の目標と考えられているにすぎないからである。

ここでは、cousin marriage を各 titled group 内と、group 間との関係においてとらえることから出発する。図2、Pathan のグループにおいて、FBD の結婚は、ことわるまでもなく、村

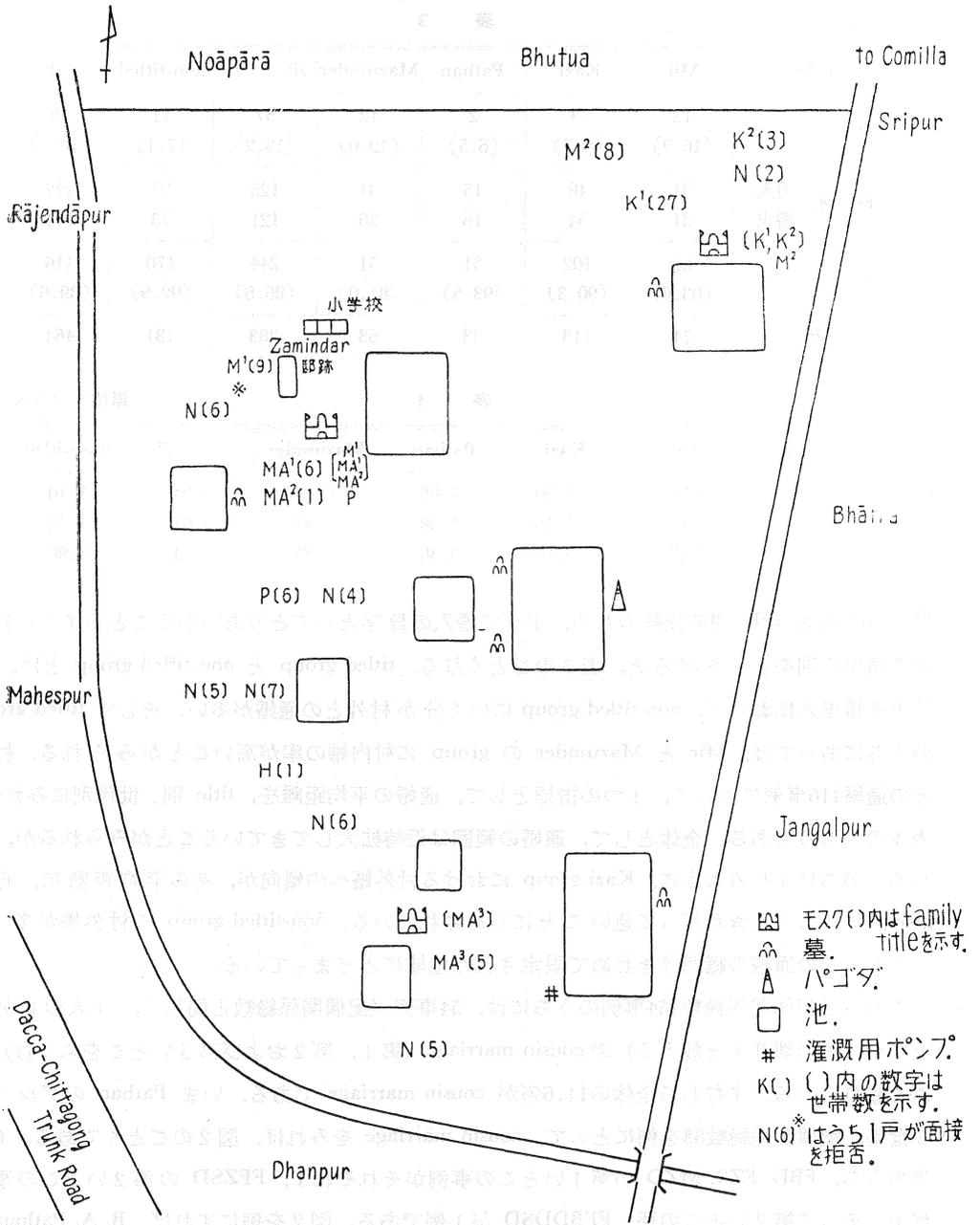


図 1

内婚である。図 2 の数字 (1) は MA<sup>3</sup> のグループに婚出し (このようなばあい、MA<sup>3</sup> の村内婚として数える), (2) の妻は、MA<sup>3</sup> のグループからの婚入である。このような cousin marriage の 54 事例についての内容を、各 titled group 別にみれば、表 5 のとおりである。

表 5 によって、54 事例の cousin marriage の内容は、第 1 いとこ、31、第 2 いとこ、13 (続柄不明、1)、第 3 いとこ、3 (続柄不明、2)、cousin marriage ではあるが、その続柄を確定

表 5

世代	title	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	K <sup>1</sup>	K <sup>2</sup>	P	MA <sup>1</sup>	MA <sup>2</sup>	MA <sup>3</sup>	N
-1			FBD—1 C.D.K.—1	FBD—2 FFBSD—1 2nd C.—1 (C.D.K.)—1			FBD—1	MBD—1		FBD—1 (MBD)—1
0			FFBSD—1 C.D.K.—1 (MBD)—1	FBD—1 (FZD)—2 (FZS)—1		(MZD)—1 (FZS)—1 (3rd C)—1	FBD—1 FFBSD—1 (FZD)—1		FBD—2	FBD—1 FFBSD—1 (FZS)—1 (MBS)—1 (FMBSD)—2 (MFBDD)—1
+1	(FZD)—1			(FZD)—1 (C.D.K.)—3	(MBD)—1	FBD—1 (FFZSD)—1	FBD—1 (FZD)—1 (MBD)—1 (FFBDS)—1		FFBSD—2	MBD—1 FFFBSDD—1 FFMBXXD—1 (MZS)—1
+2										FFBSD—1 (MZS)—1

- i) ( ) 内村外婚出
- ii) C.D.K. cousin marriage はではあるが続柄不明
- iii) 2nd C. 2nd cousin marriage であるが続柄不明, 3rd C もまた同じ
- iv) FFMBXXD. XX の箇所続柄不明

## Pathan group

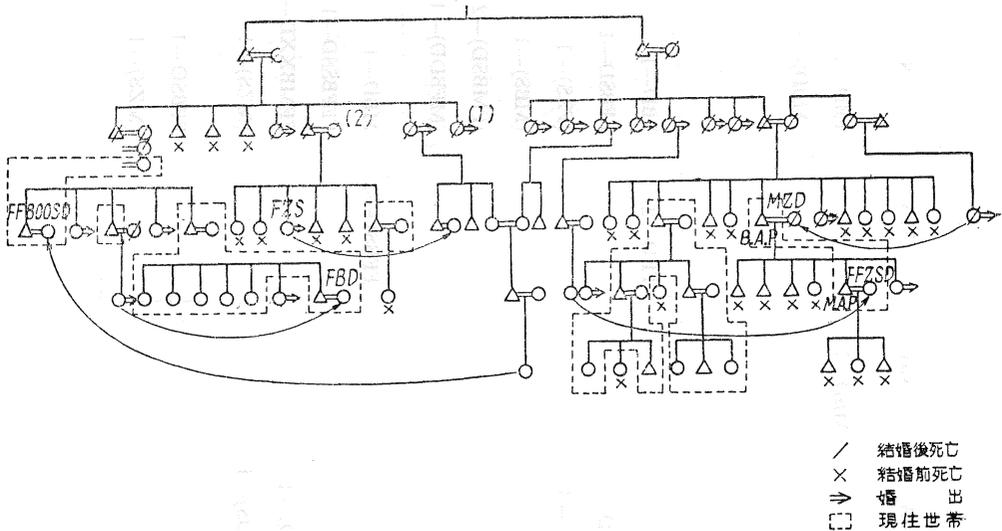


図 2

表 6

	Mir		Kazi		Pathan		Mazumder		st.		non-titled		t		T
	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	
FBD	1		3		1		5		10		2		12		12
FZD		1		3				2		6				6	7
[MBS]											1		1		
MZD						1			1				1		3
[MZS]											2		2		
MBD		1		1			1	1	1	3	1	1	2	4	9
[FZS]				1	1				2		1		3		
T	3		8		3		9		23		8		31		31

i) 内・外とはそれぞれ村内婚，村外婚をさす

ii) [MBS], [MZS], [FZS] の婚出はそれぞれ FZD, MZD, MBD に置換して，計算したことをしめす。

しえなかった事例，7である。いま第1いとこの31事例について，再整理すれば，表6のごとくなる。31事例のうち，parallel cousin marriage 15事例，cross cousin marriage 16事例である。そして patrilineal 19事例，matrilineal 12事例となる。これら31事例は，村内婚14，村外婚17であり，村内婚14事例のうちに12事例の FBD の結婚をみいだすことができる。このような patrilineal parallel cousin marriage への傾斜は，第2いとこの事例について一層甚だしい。表5にふくまれている第2いとこの事例13は，村内婚8，村外婚5であるが，そのうち続柄不明1をのぞき，村内婚のばあい，FFBSD, 7, MFBD, 1 であり，村外婚において，FFBDS (=

MFBSD), 1, FMBSD, 2, FFZSD, 1 である。この FFBSD との結婚は、ことわるまでもなく、FBD との結婚を前提として成立するものである。

ムスリムの社会においては、いとは古くから最適の配偶者として、parallel であれ、cross であれ、cousin marriage は意識的に奨励、容認されてきた。Kalikapur における、このような cousin marriage—patrilateral parallel cousin marriage への傾斜は、どのように説明されるかが問題である。

### 3

Patrilateral parallel cousin marriage は、いうまでもなく各 titled group 内の結婚である。いまこれらの titled group 内の通婚を一切除外した、各 titled group 間の通婚関係、22事例をとりあげると、表7のごとくなる。表7を整理すれば (non-titled group を一括して N とする)、各 titled group 間の通婚関係は、

Mir

$M^1—K^1$

$M^2—K^1, MA^1, MA^2, MA^3, N$

Kazi

$K^1—M^1, M^2, MA^1, MA^2, MA^3, N$

Pathan

$P—MA^3, N$

Mazumder

表 7

title 世代	M <sup>1</sup>	M <sup>2</sup>	K <sup>1</sup>	K <sup>2</sup>	P	MA <sup>1</sup>	MA <sup>2</sup>	MA <sup>3</sup>	N
-2	←D.K.		←MA <sup>2</sup>				←K <sup>1</sup>		
-1			←MA <sup>3</sup> ←MA <sup>3</sup>		←MA <sup>3</sup>		←K <sup>1</sup> (MBD)	←P	←P
0	←K <sup>1</sup> (C.D.K.)	←K <sup>1</sup> ←MA <sup>1</sup> ←MA <sup>2</sup>	←M <sup>1</sup> (δ)						←M <sup>2</sup>
+1	→K <sup>1</sup> →K <sup>1</sup>	←MA <sup>3</sup>	←M <sup>1</sup>				←N (δ)		→MA <sup>3</sup> (FFMXXD)
+2			←N						

i) ←は婚入をしめす

ii) ←D.K. は titled group 間の通婚であるが、いずれの title か不明の事例

iii) (δ) はむこ養子をしめす

iv) (MBD), (FFMXXD) は cousin marriage, XX は続柄不明。  
(C.D.K.) も cousin marriage であるが続柄不明の事例

v) non-titled の 11 family group 間の通婚は省略

MA<sup>1</sup>—M<sup>2</sup>MA<sup>2</sup>—K<sup>1</sup>, M<sup>2</sup>, NMA<sup>3</sup>—K<sup>1</sup>, M<sup>2</sup>, P, N

non-titled

N—K<sup>1</sup>, M<sup>2</sup>, P, MA<sup>2</sup>, MA<sup>3</sup>

となる。この通婚関係からみて、titled group 間の関係をおよそ3つのグループ、1) K<sup>1</sup> とのみ通婚する M<sup>1</sup> と、M<sup>2</sup> とのみ通婚する MA<sup>1</sup> のグループ、2) Mir のすべてと、Mazumder のすべてと、そして non-titled とも通婚する K<sup>1</sup> のグループ、3) K<sup>1</sup> と M<sup>2</sup> と P と、そして N と通婚する MA<sup>3</sup> のグループをとりあげることができる。titled group 間の通婚関係を通して、なぜこのような MA<sup>1</sup> と K<sup>1</sup> と MA<sup>3</sup> のそれぞれを中心とする3つのグループにわけられるかは、2つの理由がある。第1は、ムスリムとしてのそれぞれモスクの維持と、第二は農業生産の経営である。

系譜的に、それぞれの titled group 内の、M<sup>1</sup> と M<sup>2</sup>, K<sup>1</sup> と K<sup>2</sup>, MA<sup>1</sup> と MA<sup>2</sup> そして MA<sup>3</sup> の各家族群は、どのような関係であるかは、2世代遡及して、確定することは不可能である。M<sup>1</sup> と M<sup>2</sup> の人々は、3世代遡及した Arab Mir [M<sup>1</sup>] と Nur Mir [M<sup>2</sup>] とは、系譜の関係がないことを強く指摘する。しかし、M<sup>2</sup> の informant の1人によれば、M<sup>1</sup> と M<sup>2</sup> は、Kalikapur の隣村 Bhatra の non-titled group とすでに何代か前に、相互に関係する同一の descent group であると指摘する。しかし、M<sup>1</sup> と M<sup>2</sup> の人々が主張するように、M<sup>2</sup> は K<sup>1</sup> と K<sup>2</sup> のモスクに礼拝し、M<sup>1</sup> のモスクには参集しない。M<sup>1</sup> のモスクは、Zaminder の廃屋と小学校に接し、村の中心部に位置するもっとも古いモスクであり、そこには MA<sup>1</sup> と MA<sup>2</sup> と P とともに参集する。M<sup>1</sup> は MA<sup>1</sup> と MA<sup>2</sup> そして P とともに古い家柄を意識している。MA<sup>1</sup> と MA<sup>2</sup> との関係も系譜的に確定することはできない。MA<sup>1</sup> と MA<sup>2</sup> の人々は、MA<sup>3</sup> と同一の descent group であることを固く否定する。MA<sup>3</sup> の人々は、MA<sup>1</sup> と MA<sup>2</sup> (したがって M<sup>1</sup> と P もふくめて) のモスクとは別の独立したモスクをもっている。そして Eid-ul-Fitr の祭には、MA<sup>3</sup> の人々のみは、モスクに遠い、むしろ MA<sup>1</sup>, MA<sup>2</sup> の家屋に近い野辺に参集して祈りをささげるのである(写5参照)。そして MA<sup>3</sup> の informant の1人によれば、3世代遡及した Dham Gazi Mazumder [MA<sup>1</sup>] は、Sora Gazi Mazumder [MA<sup>3</sup>] の甥であると指摘する。family title group を descent group として遡及することは不可能である。しかし、これらの family title group は、系譜関係をはなれて、それぞれの家族群として、モスクの維持に、それぞれの家族群としての機能をはっきりと現わしているということができる。

これらの3つのモスク、1) M<sup>1</sup> と MA<sup>1</sup> と MA<sup>2</sup> と P、2) K<sup>1</sup> と M<sup>2</sup>、そして 3) MA<sup>3</sup> の人々による維持管理は、じつはそのままさきの通婚関係によってわけられた3つのグループに照応する。なぜならば、グループ 1)、M<sup>1</sup> と K<sup>1</sup>, MA<sup>1</sup> と M<sup>2</sup> とのみ通婚するグループは、M<sup>1</sup> と MA<sup>1</sup> とによるモスクと、K<sup>1</sup> と M<sup>2</sup> とによるモスク、いにかえるならば titled group 間の典型的な通婚ということができる。それにたいして、グループ 2)、P をのぞいたすべての

グループと通婚する K<sup>1</sup> と、グループ 3), K<sup>1</sup> と M<sup>1</sup> と P とそして N と通婚する MA<sup>3</sup> の 2つのグループの通婚関係のもつ意味は、いささか異なっている。

## 4

このことをあきらかにするのは、各家族群における農業経営である。東パキスタンの他の地域とは異なって、Kalikapur には大地主、とくにヒンドゥの地主はいない。耕作地の一部が借入地である世帯は、全世帯の39.5%であるが、全耕作地にたいする借入地の割合は、わずかに13.6%、1世帯当り借入地の平均は0.82 acres にすぎない。1世帯当り耕作地の平均2.44 acres の自作農である。しかし、劣悪な自然条件一雨期と乾期における灌漑一におかれている東パキスタンの小農経営による農業生産力については、とくにここに誌すまでもない<sup>8)</sup>。Kalikapur おいても、Aus, Amon そして Boro いずれの収穫も、1 acre 当り約 13 maund にとどまっており、ほかに砂糖きび、馬鈴薯を中心とする蔬菜が若干、耕作されるのみである。このような条件の下では、経営規模がそのまま農業生産力の指標とはならないが、いま titled group 別に経営規模をみれば表 8 のとおりである。ここには titled group 別にかなりははっきりした差異を認めることができる。M<sup>1</sup> も M<sup>2</sup> もともに経営規模は小さい。K<sup>1</sup> も K<sup>2</sup> も同様に小さいが、Kazi のグループは、Comilla にもっとも近く居住し、衣服、雑貨の小売商人として、Kalikapur においてもっとも現金収入の多いグループである、そして MA<sup>3</sup> に代表される Mazumder のグループがもっとも典型的な専業農家といえる。なかでも MA<sup>3</sup> のグループは、平均経営規模 4.18 acres、現在の Kalikapur の chairman は MA<sup>3</sup> の出身であり、農業技術の改良、灌漑用モーターの導入など Kotowail Thana Central Cooperative Association の Agricultural Society のもっともアクティヴなメンバーとして、Kalikapur の農業生産力の向上に中心的な役割を担っているグループである。この KTCCA 加入のメンバー、43世帯は、その大半が MA<sup>3</sup> とそれぞれ平均 2.17 acres, 2.06 acres とを耕作する Pathan と non-titled group によってしめられ

表 8 単位：acre

titled group		1世帯当平均経営規模	
M <sup>1</sup>	] Mir	1.95	1.77
M <sup>2</sup>		1.63	
K <sup>1</sup>	] Kazi	2.00	1.70
K <sup>2</sup>		1.40	
P	Pathan	2.17	2.17
MA <sup>1</sup>	] Mazumder	3.41	3.76
MA <sup>2</sup>		3.80	
MA <sup>3</sup>		4.18	
non-titled		2.06	2.06

ている。non-titled group の平均は 2.06 acres ではあるが、さきにふれたように、総世帯数34戸の平均であって、なかには 4 acres あるいは最大 7 acres を耕作する農家がふくまれている。Kailkapur の農業は、MA<sup>3</sup> と Pathan と non-titled group の一部によって担われているといっている。

このような titled group 間の経営規模別の農業生産の差異は、さきの titled group 間の通婚関係による3つのグループを説明する。グループ 1), K<sup>1</sup> とのみ通婚する M<sup>1</sup> と、M<sup>2</sup> とのみ通婚する MA<sup>1</sup> については、すでにふれたように、いずれも経営規模が小さく、家格のみを意識する典型的な titled group 間の通婚である。グループ 2), 経営規模は小さいが、小売商人として経済力に富む K<sup>1</sup> のグループが、P をのぞくすべてのグループとも通婚し、またさきにふれたように、表 3, 村外婚も高率であり、その範囲ももっとも大きいことは (表 4), すでにあきらかである。そして K<sup>2</sup> には村内婚の事例はみあたらない。グループ 3), MA<sup>3</sup> がともに Kalikapur おける農業経営の中心である P と N と通婚し、また農業経営をめぐる村内のリーダーシップを把握し、それに伴う経済力の向上が、K<sup>1</sup> と MA<sup>3</sup> との通婚をうながしている。

このように、それぞれのモスクの維持、管理と規模別による農業経営からみいだされる titled group 間の通婚関係は、titled group それ自身のもつ意味をあきらかにする。いいかえるならば、titled group は、group 間の通婚関係を通して、あるいはその結果として、1つの少なくとも経済的な社会階層を形成しているということが出来る。titled group をこのような titled group 間の通婚関係を通して形成された1つの階層であると考えれば、titled group 内の

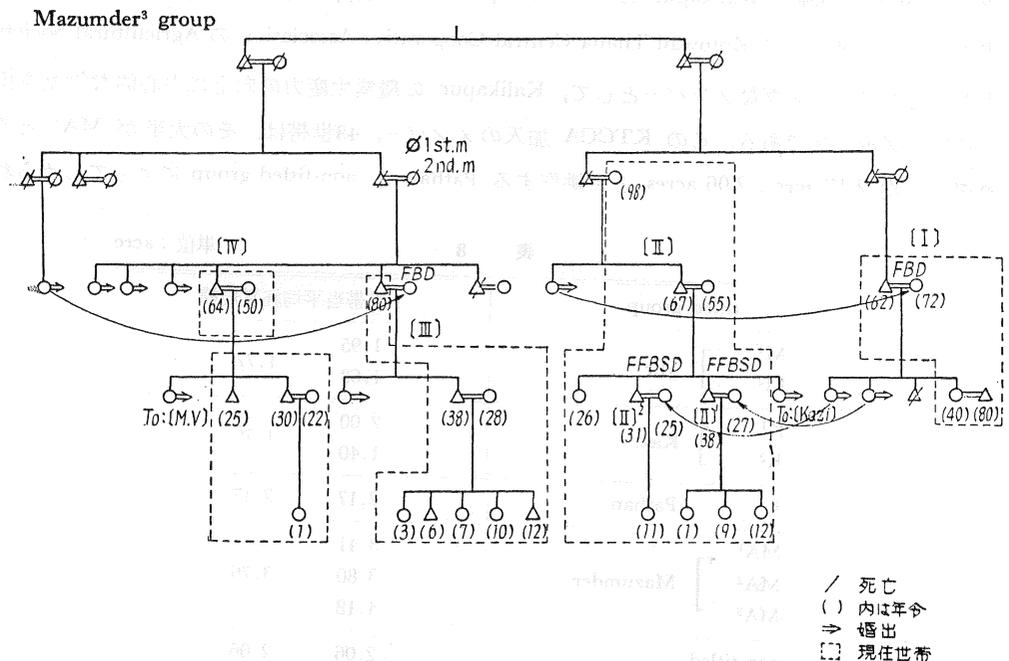


図 3

通婚, いかえれば高率の *patrilateral parallel cousin marriage* はどのように考えられるか。

## 5

titled group が, ムスリムの *family title* と, 同時に農家としての経済的上昇に関係する階層との結びつきであるとすれば, 現在までの *parallel cousin marriage* についての説明, 多く家産の維持, 相続による説明は一層妥当なものといえることができよう。いま Kalikapur において, もっとも経済的に上昇しつつあるグループと指摘した MA<sup>3</sup> のばあいの相続をみよう。図3における, [I] は, 0.6 acres を親から相続, 3.19 acres を購入, そして婿養子に 0.75 acres を分配。[II] は, 親から 2 acres, 購入 5.63 acres, 2人の息 [II<sup>1</sup>] と [II<sup>2</sup>] に, それぞれ 2 acres を分配 (この [II] の67才, Anowar Ullah Mazumder が Kalikapur の現 chairman である)。[III] は 0.7 acres を親から, 0.96 acres を購入, [IV] は, 3.53 acres を相続, 購入なし, 長子に 1.17 acres を分配 (この長子は現在 chairman の manager をつとめる)。このような相続と [I] における FBD 婚, [II] における2つの FFBSD 婚, [III] における FBD 婚とは, たしかに決して無関係ではない。これらの FBD, FFBSD 婚によって, 耕地は少なくとも維持されていくといえることができる。しかし, これらの FBD 婚によって, 耕地は拡大されていくという保証はない。もし拡大される保証があるとすれば, FBD が, イスラム法に従った相続, 2 daughter は 1 son に均しいという相続がおこなわれているばあいかぎってである。

Kalikapur においては, 娘の結婚のために耕作地を売却した事例は, 現在までに 4, 5 事例, 若干の現金を与えた事例, わずかに 2, 3 例にとどまっている。Kalikapur においては, 女子の財産相続は, 権利をもつが, 行使されたことはない。ムスリムとして, Kalikapur では主婦に面接することは不可能であったが, たまたま Miss T. N. Ahmed の協力によって, 現在, いとこを夫にもつ主婦15名について面接調査を実施した (うち1名コレラのため面接不能)。14事例のうち, 結婚の衣服, 装身具類のための出費一持参金といえるものではない, 東パキスタンにおいても持参金は中流以上の家庭では通常夫側の支出となるが, 事実上妻側も支出する一は, Rs. 200 以下 7, Rs. 500 以下 3, Rs. 1000 以上 4 事例である。それを借金によってまかなった事例 8, 残りの 6 事例が借金なしにまかなっているにすぎない。式当日の宴は, 夫側負担と, 式後の妻側負担の2つの宴にわけられるが, それらをあわせて, 結婚宴の総費用, Rs. 200 以下 6 事例, Rs. 500 以下 5, Rs. 1000 1, 不明 2 であって, およそそれらの結婚は財産の相続, 維持と関係するものではない。

この14事例の *cousin marriage* を arrange したのは, もっとも多く父方の uncle 5, 父 4, 兄弟 2, 祖父 1, father-in-law 1, mother-in-law 1 であって, 結婚前に相談をうけたもの, わずかに 3 事例, 残りの11事例はまったく相談をうけていない。“出来ればまったくの他人との結婚を望んだか”という質問に yes 10, no 2, D.K. 2 である。yes の理由は, 結婚後, 家族あるいは親戚間の関係をスポイルするというもの 4, 現在の夫にたいする不満 1, 新しい親戚を

もつことができるからというもの 1, D.K. 4 である。にもかかわらず, joint family にたいする意見は, good 10, bad 4 である。good というものの理由は, 家族の繁栄と村人からの尊敬 5, joint income が増えるから 2, お互いに助けあうことができる 2。ここには cousin marriage への忌避にもかかわらず, joint family へのアクティブな肯定がある。joint family への 'sentiment' は, cousin marriage へのネガティブな肯定を生んでいるといえるだろうか。

## 6

cousin marriage は, 最初にとりあげた joint family の問題となってくる。英語を話す少数の村人達は, しばしば joint family か separate family という言葉を口にする。しかし, 水田耕作を生業とする純農村 Kalikapur において, joint family であるかどうかは, joint の耕作, 生産物の分配にかかっている。ある家族は joint であり, ある家族は joint ではない。村人のいう separate family とは, 生産, 分配における separate を意味していない。それは, しばしばたんなる居住形態, 家屋としての separate を意味しているにすぎないが多い。しかしムスリムのゆえに, 家屋内への立入りが不可能であり, 居住形式が separate であるかどうかを明らかにすることも不可能であった。しかし, 面接を通して, 自己あるいは他人の家族について, separate family であるという村人の説明には, 事実上, joint family の生活を送っているながら, それが elementary family に分解しつつあることを意識していることをうかがうことができる。Kalikapur もまた, 東パキスタン全体の joint family の解体化の大きな流れのなかにあるということ是可以する。

しかし, Kalikapur の家族が joint family の解体過程にあるということは, じつは Kalikapur の家族の現状をなにも説明していないことと同様である。さきに family title group を joint family としてではなく, 家族群とのみあえて規定した意味もここにある。joint family の1つの指標として, 各家族構成員における世代別構成をとりあげてみよう。表9によれば, 3世代の構成員からなる家族は, titled group よりも non-titled group にむしろ多いことがみられる。このことは, さきの表1における1世帯, 構成員数の平均, titled group の5.06人にたいして, non-titled group のそれは5.85人からも想定することができる。さきにふれたように, これら34世帯の non-titled group は, 11の家族群にわかれている。はたしてこれらの non-titled group

表 9

世 代 数	titled group	non-titled group	T
1	10 ( 15.4)	5 ( 12.2)	15
2	47 ( 72.3)	21 ( 63.3)	68
3	8 ( 12.3)	7 ( 21.2)	15
4	—	1 ( 3.0)	1
T	65 (100.0)	34 (100.0)	99

## None-titled group

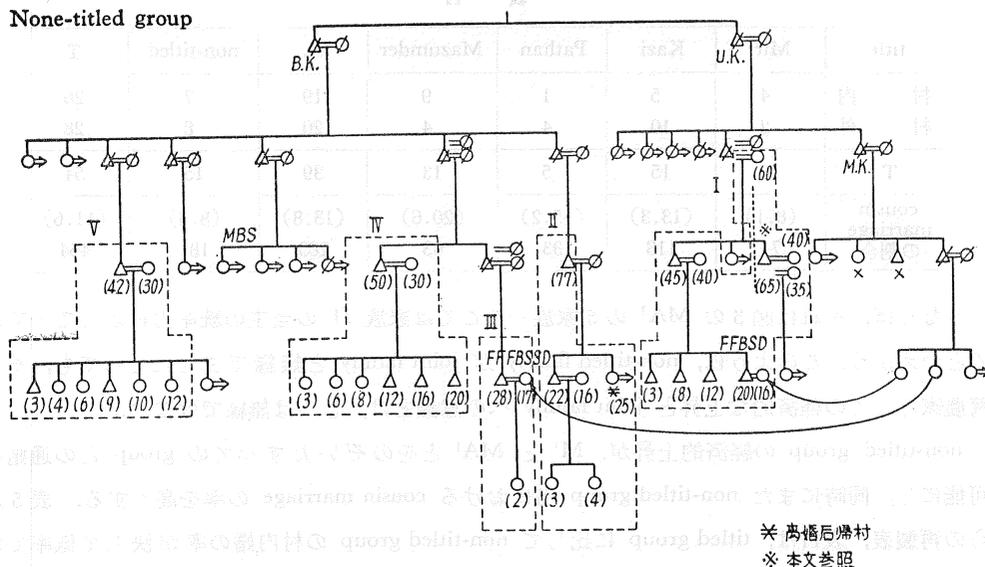


図 4

表 10

単位：acre

農家番号	所 有	借 入	経営地	Aus	Amon	Boro	Vegetables
I	2.37	—	2.37	2.02	2.02	.65	—
II	1.06	.28	1.34	1.14	1.14	.50	.10
III	1.29	—	1.29	1.11	1.11	—	.20
IV	2.24	—	2.24	1.84	1.84	1.12	—
V	7.00	—	7.00	6.00	6.00	1.94	.40

は、いわゆる joint family の解体過程にあるといえるかどうか。

non-titled group は、さきにふれたように、 $M^1$  と  $MA^1$  とをのぞいたすべての group と通婚する。そして  $M^1$  は  $K^1$  とのみ、 $MA^1$  は  $M^2$  とのみ通婚する。通婚関係におけるグループ 1) とよんだグループに属する。いかえればこの通婚関係のグループ 1) とのみ通婚しないのが、この non-titled group である。そして non-titled group は、とくに  $MA^3$  とならんで、Kalikapur 農業生産向上の担い手であることも、さきにふれたとおりである。いまその具体例を図 4 の non-titled group の 5 家族についてみよう。図 4 の農家番号 I~V における、それぞれの経営規模と作付面積は、表 10 のとおりである。借入地は農家 II がわずかにもっているにすぎず、農家 V の 7 acres は、Kalikapur における最大の経営規模であって、いうまでもなく、KTCCA のもっともアクティブなメンバーの 1 人である。この農家 II~V の 4 世帯は、農作業を共同にしているが、そのばあい II, III, IV の農家は農家 V の被傭者であって、joint family ではない。農家 I の 65 才※は妻 2 人と同居している Kalikapur における唯一つの事例、父の初婚の子であって、再婚の 45 才の子の家族とは、家屋を別にしては、まったく 1 家族として生活する。ただし農家 I のごとき事例は特例である。もし典型的な joint family と

表 11

title	Mir	Kazi	Pathan	Mazumder	st.	non-titled	T
村 内	4	5	1	9	19	7	26
村 外	2	10	4	4	20	8	28
T	6	15	5	13	39	15	54
cousin marriage の割合	(8.1) 74	(13.3) 113	(15.2) 33	(20.6) 63	(13.8) 283	(8.3) 181	(11.6) 464

いうならば、それは図3の MA<sup>3</sup> の5家族—ここでは家族 II の当主の統率力によって—であるといえよう。このように、non-titled family が joint family と無縁であったとしても、その篤農家としての経済的な上昇と joint family への意識とは、じつは無縁ではない。

non-titled group の経済的上昇が、M<sup>1</sup> と MA<sup>1</sup> とをのぞいたすべての group との通婚を可能にし、同時にまた non-titled group 内における cousin marriage の率を高くする。表5からの再製表、表11は、titled group に比して non-titled group の村内婚の率が決して低率でないことをしめしている。もともと non-titled group という意味は、じつはあきらかではない。よく伝えられるように東ベンガルにおけるムスリムは、多くヒンドゥーからの改宗者といわれている。図4の U, K. とは Umar Kazi, M. K. とは Maher Kazi, そして B. K. とは Bashar Kazi の省略である。これらの Kazi はいわばよび名の1つであって、たしかに titled group の Kazi とは無関係である。しかし、現在の小さな家族群11からなる non-titled group のうちから、やがて他の titled group が構成されてこないという保証もまたありえない。titled と non-titled group との差異は、農業経営を中核として、通婚関係の結果として、形成された1つの階層と規定することができる。

このように形成された社会階層と、崩壊過程にあると考えられている joint family, いいかえれば家族群への意識とは、cousin marriage を通して結びついている。

## 7

ヒンドゥーと共存するムスリムにおいては、Kalikapur ほどに FBD との結婚はみられない。たとえば、Gujarat においては、第1に MZD, ついで MBD, そして FZD との結婚であり、西からの移住のムスリムの間において FBD の結婚がみられると報告されている<sup>9)</sup>。patrilateral parallel cousin marriage の好例として、つねにとりげられる Middle East のムスリムと、Kalikapur のムスリムとを結びつけて考える要因が働いているだろうか。Kalikapur における patronymic group は、Kurd<sup>10)</sup> の「防衛単位としての tira」に相当するものをもちあわせていないし、「factional struggle における corporate group」と考えることは無理だろう。もともと Kalikapur における村内婚の比率は高いものではない。そしてまた、Bedouin<sup>11)</sup> ほどに

「agnatic segmentation」が「より高次のアラブ社会」の統合につながるとも考えられない。もし Bedouin に結びつくものがあるとすれば、東ベンガル全体のヒンドゥへの態度、あるいは突発的に流血の惨事となるコミュニナリズムであるだろう。しかし、ヒンドゥに対抗するムスリム社会の統合を考えるには、Kalikapur のムスリムは平和にヒンドゥと共存する。

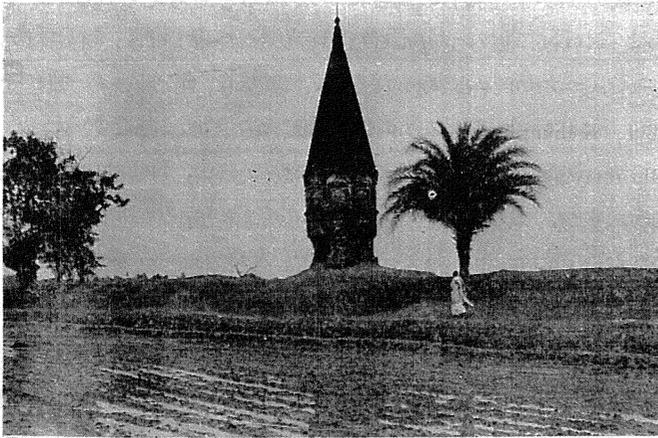
社会学が問題とするのは、cousin marriage を生みだすものはなにかである。Kalikapur においては、family title それ自身が生みだすか、あるいは title 形成への意識が生みだすか、いずれかである。「apical ancestor をもたない」<sup>12)</sup> family title を、家族群と置換させて、家族群間の通婚関係は、結果として、1つの社会階層を形成させる。あるいは逆に、社会階層としての家族群が、群間の通婚関係を規定する。そのいずれであるかはあきらかではない。しかし、家族群内の通婚—いいかえるならば結婚の形式としての patrilineal parallel cousin marriage の優位—は少なくとも家族群間の階層、すなわち、family title を維持、形成するということができる。結婚の形式として cousin marriage が家族群間の関係、すなわち通婚関係あるいは階層を規定する機能をもっていないことは、ことわるまでもない。

#### 註

- 1) Population census of Pakistan, District Census Report Comilla, 1961.
- 2) Peters, E.L., "Aspects of Rank and Status among Muslims in a Lebanese Village, in Mediterranean Countrymen, ed. J. Pitt-Rivers. 1963, pp. 159-200.
- 3) Kahn, F.R., "The Caste Systems of the Village Community", in Sociology in East Pakistan, ed. J.E. Owen, 1962, pp. 224-228.
- 4) Karim, A.K.N., Changing Society in India and Pakistan, 1956.
- 5) Misra, S.C., Muslim Communities in Gujarat, 1964.
- 6) Eglar, Z.A., A Punjabi Village in Pakistan, 1960.
- 7) Stirling, P., Turkish Village, 1965.
- 8) Mukerji, K., Socio-economic Survey of 49 Villages, 1952.
- 9) Misra, op. cit., p. 153.
- 10) Barth, F., "Father's Daughter Marriage in Kurdistan," Southwestern Journal of Anthropology, 10 (1954), p. 166.
- 11) Murphy, R.F. and L. Kasdan, "The Structure of Parallel Cousin Marriage," American Anthropologist, 61 (1959), p. 26.
- 12) Peters, op. cit., p. 189.

本稿の一部は "Cousin Marriage in a Muslim Village" として The Sociological Review Monograph, No. 10, 151-164, 1966 に寄稿した。執筆の時期を異にするため、推論のプロセスに若干の差異があることを諒承されたい。

本調査にあたって、当時東パキスタン駐在竹中総領事、Pak-Japan Agriculture Extension Institute の森秀男氏、ならびに Pakistan Academy for Rural Development, Comilla の吉住清昇氏には格別の御尽力をいただき、とくに吉住氏の御援助なしには、本調査は不可能であった。外に Academy の Mr. A. Z. Khan, Mr. R. Rahman ならびに本文中にも誌した Miss T. N. Ahmed にも種々の御配慮をえた。ここに深甚の謝意を誌したい。



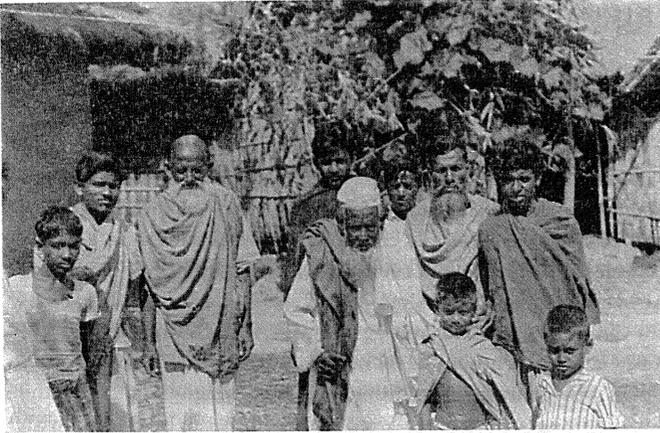
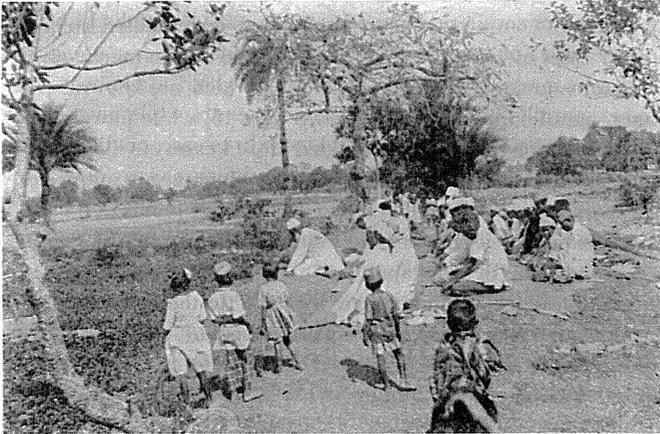
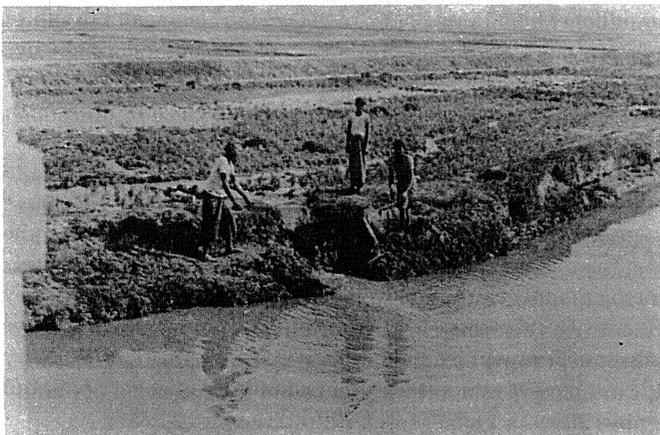
1 ヒンドゥ寺院跡



2 M<sup>1</sup>, MA<sup>1</sup>, MA<sup>2</sup> の mosque



3 Zamindar 邸あと

4 K<sup>1</sup>とMA<sup>3</sup>の通婚5 MA<sup>3</sup>のEid-ul-Fitr

6 ざるの水揚げ

## I Cousin Marriage in a Bengalese Village

Cousin marriages which the writer intends to discuss here have no concern with cross-cousin marriages in preliterate society, for, as generally well known, the society of Muslim in East Pakistan belongs to a rather civilized one though it is illiterate and also cousins are acknowledged as targets for spouses at the marriages of Muslim irrespective of cross or parallel cousins. In a word, the present paper is an attempt to make clear the meaning of cousin marriages in the Muslim society.

Kalikapur is a pure agricultural Muslim village near Comilla in East Pakistan, which is composed of 104 households (one Hindu family is included among them). 99 Muslim families are divided into 4 family titled groups of Mir, Kazi, Pathan, Mazumder and non-titled family group. Except Pathan, according to genealogy, Mir consists of 2 families, Kazi 2, Mazumder 3 and the non-titled includes 11 families. The marriages of 464 cases were collected at the interviews with all the above families. Of these only 10.4% are village endogamies, but it should be also noted that even in the cases of many extra-village marriages the distance travelled to marriage is confined with extremely narrow limits.

Among 464 cases of marriages, 54 cases of cousin marriages are included, which falls 11.6% of the whole. These 54 are made up of 31 cases of 1st cousin marriages, 13 2nd cousin marriages, 3 3rd cousin marriages, and 7 other cousin marriages the relationships of which are known. As regards 31 cases of 1st cousin marriages, parallel ones are 15 and cross ones 16, while patrilateral ones are 19 and matrilateral ones 12. At the same time they are divided into 14 cases of village endogamy and 17 ones of extra-village marriages, and 12 of 14 cases of village endogamy are marriages with FBD. In the case of 2nd cousin marriage as well as 1st ones, 7 FFBSD are found in 8 cases of village endogamy of all 13 cases. Consequently it can be said that patrilateral parallel cousin marriage is distinctive feature of cousin marriages of Kalikapur.

This marked tendency to patrilateral parallel cousin marriages is related to the marriage connections within or between family titled groups. These marriage connections comprise three varieties of groups with specific family titled groups as their marked characteristics. The characteristics of these three groups cannot be revealed only by inquiry to the genealogical relationship, but have something to do with the maintenance and management of the three Mosques. And at the same time the classification into these three groups is related with the difference in agricultural productive capacity from the cultivation areas: one is a typical titled group which are conscious of their own family rank and the cultivation areas are small, the second is retailer group who are wealthy in economical point of view, and accordingly high in rate of extra-village marriages, and the third is the group who are rising in economic power as the improvement of agricultural productive capacity in the village. In other words, although it is difficult to clarify the genealogical relationship within family titled groups, these groups form, as a result, a kind of social stratification in the matter of marriage connections between family titled groups.

If we consider the family title as such a formed social stratification, it is certainly possible to prove in relation to inheritance of property that patrilateral parallel cousin marriages are those within a group. But with a few exceptions, the society of Kalikapur is not rich enough to follow the law of succession which is stipulated in Islamic law. Most of the housewives whose husbands are their cousins are affirmative to the way of joint family as a means of inheriting their property, but they show negative sentiment to cousin marriages themselves. In conclusion, it is not clear whether patrilateral cousin marriages in Kalikapur is caused by family title itself or by conscious tendency towards the forming of a title, but it can be safely said at least that cousin marriages are powerful in maintenance and formation of family titles as a kind of social stratification.

## II Gujarat のムスリム村落



## 1

Anti は、Baroda の北、約15マイル、Vishvamitriを發する Jambusar 線の Ranupipri 駅より約2マイルに位置する孤立したムスリムの村落である。'61年センサスによれば、男1042, 女976, 計2,018, 総世帯数349世帯, 家屋数339, 面積で2,132 acresある。'67年7月調査における村学校集計によれば男1,064, 女1,003, 計2,067. また punchyat 集計によれば、カースト別世帯数は表1のとおりである。さらにまた、Taluka Panchayat Padura の Land Taxes Registerによれば426家族, 人口3,265とも報告されている。これらの数字の変動は、いずれも概数であるが、いずれが正確かは判定できない。なぜならば、i) '61年センサスによれば、literate は男46.2%, 女5%にすぎず。ii) さらに世帯は、以下にしめすように、村の多数をしめるムスリムのばあい典型的な joint family の型態をしめしている。そして iii) 周囲をヒンドゥ村落に囲まれているムスリム村落として、stranger にたいして防衛的な警戒心がきわめて強い。本調査においても村人の疑惑を氷解することは、調査完了時まで遂に不可能であった。

表 1

Muslim	244
Patel	1
Luhar	2
Suthar	1
Pagi	60
Chamar	14
Wankar (Dhed)	45
Vaghari	14
Wanik	1
Harijan	9
	388

このムスリムは、表2の4家族に分れる。このようにムスリムが全世帯の60%余をしめる村落は、Baroda 近郊には稀である。カースト別にみて、よく指摘されるように、もともと、Baroda の北には Rajput が多く、南には Patel が多いことは、表3にもしめされるとおりである。

表 2

Malek	220
Shaik	1
Saiyad	18
Diwan	5
	224

表 3

Vadsala		Por		Padmala		Fazalpur	
Brahman	2	Brahman	60	Brahman	4	Rajput	208
Patel	60	Bania	30	Rajput	200	Sarania	1
Koli	8	Patel	80	Maratha	4	Chamar	7
Rajput	1	Koli	?	Patidar	45	Rabari	25
Bariya	1	Rattad	?	Luhar	1	Bhangi	8
Baraiya	1	Bhil	?	Sudhar	1	Muslim	2
Bhil	20-25	Harijan	60	Soni	1		
Bhangi	5			Darji	4		
Harijan	12			Kumbhar	4		
				Naik	5		
				Waghri	20		
				Harijan	100		
				Vanzara	10		
				Ode	3		

しかし、これらはきわめて概括的な指摘であって、Anti の隣接村 Amboda は、表4のごときカースト構成をもっている。したがって、Anti はこの地区ではかなり特異な性格をもつ村落であるといえよう。Anti のムスリムの多数をしめる Malek Family の人々の間には、ほゞ700年前、2人の兄弟、Alli Rahim と Aju Rahim との後えいであるという口伝が残っている。この2兄弟は Ahmadabad に住み、その趾はいまなお Malek の名を冠して Maneck Chowk という街路名として残っている。その後、2兄弟の末えいは、Baroda Dist. の Parala に居を構え、約100年前まで通婚があったと伝えられている。Malek Family の人々から云えば、Saiyad Family は Villayat (後述) から、Diwan は一定の地域からではなく、いずれも約200年前に移住、Shaik Family は約100年前の移住であるという。そして Malek Family の古い家柄の A.I.M. Family の1人は、苦もなく8世代前の祖先の名を、A.I.M.—I.B.M.—B.A.M.—A.R.M.—R.S.M.—S.K.M.—K.B.M.—B.A.M. と口にする。B.A.M. の前は Arab である。

表 4

Brahman	3	Pagi	45
Patel	50	Rawal	10
Bania	3	Vankar	35
Rajput	2	Waland	1
Luhar	1	Waghari	4
Kumbhar	2	Harijan	2
Sudhar	1	Ode	2
Rabari	6	Muslim	3
Baraiya	10		

たしかに、村人のなかに、あきらかに褐色の髪の色、碧眼の人々を見出すことは容易であり、またハッジは本村で22人に達したという。しかし、以上の口伝は、いずれも、たんなる口

伝にすぎないことは、いうまでもない。

Dr. Mehta の見解によれば、Anti の村名は、現在の隣接村、Sadhi、すなわち 'Sradhdhika' の近くにある 'Antika' がその由来であるという。"It is a small village to the west of Sadhi. It is identified as Antika of the Anastu copper-plate grant of Siladitya III, of Gupta era 361. Today, this village, inhabited by Muslims, does not show any trace of the old habitation except an image of Sūrya which, on stylistic grounds cannot be earlier than the mediaeval period II."<sup>(2)</sup> Anti について、つごろからムスリムが定住したかは詳らかではない。

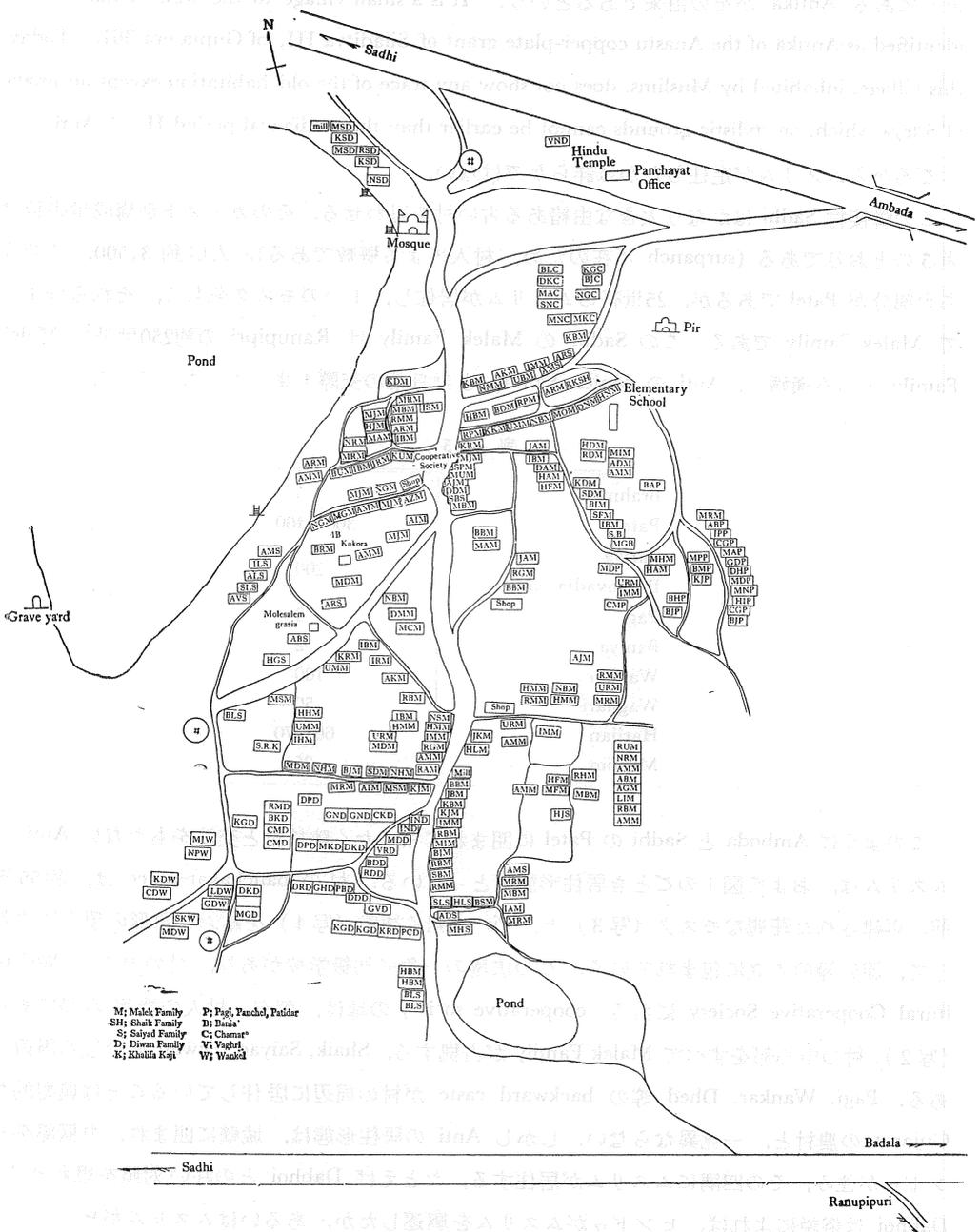
この隣接村 Sadhi はかなり大きな由緒ある古い村を思わせる。そのカースト別構成世帯数は表 5 のとおりである (surpanch 不在のため、村人による概数である)。人口約 3,500, そのうち大部分が Patel であるが、25世帯のムスリムが居住し、1つのモスクをもち、それらはすべて Malek Family である。この Sadhi の Malek Family は Ranupipri の約250世帯の Malek Family とのみ通婚し、Anti の Malek Family とは日常の交際もまったくもっていない。

表 5

Brahman	5
Patel	300~400
Bariya	200
Putanvadia ]	
Pagi	3
Baniya	2
Wankar	100
Waghari	50
Harijan	60~70
Muslim	25

このように Amboda と Sadhi の Patel に囲まれてまったく隣接村と交渉をもたない Anti のムスリムは、およそ図 1 のごとき居住形態をとっている。村の panchayat office は、約55年前、再建された荘麗なモスク (写 3) と、Pir を祀る神殿 (写 4) を結ぶ三角形の頂点に位置して、深い緑の木立に包まれている。この広場の一角に初級学校があり、村の中心は Agricultural Cooperative Society にある。cooperative society の縁は、朝夕、村人の談笑の場である (写 2)。村の中心部をすべて Malek Family が占拠する。Shaik, Saiyad, Diwan もむしろ周辺である。Pagi, Wankar, Dhed 等の backward caste が村の周辺に居住していることは典型的な Gujarat の農村と、一見異ならない。しかし Anti の居住形態は、城壁に囲まれ、中枢部をヒンドゥーが住み、その四隅にムスリムが居住する、たとえば Dabhoi との好い対照を思わせる。Dabhoi は俗説によれば、ヒンドゥーがムスリムを駆逐したか、あるいはムスリムがヒンドゥーを監視するためか、いずれかによって、現在の居住形態をとったといわれている。

図 1 による各家屋別集計は表 6 のとおりである。ムスリム 189, ヒンドゥー 67, ほゞムスリムは全体の 75%をしめている。このムスリムのうち、Malek Family は全体の 60%余、ムスリム



- M; Malik Family
- SH; Shahi Family
- S; Sajid Family
- D; Diwan Family
- K; Khalifa Kaji
- D; Pagi, Fanchel, Patidar
- B; Bania
- C; Chama\*
- V; Vaghi
- W; Wankal

表 6

Malek	158	Pagi	17
Shaik	1	Bania	1
Saiyad	21	Chamar	9
Diwan	8	Vaghri	8
Molesalem Grasia	1	Wankar	26
Khalifa	1	Panchel	1
Kaji	1	Patidar	1
		Kokora	1
		計	256

の 80% 以上である。

## 2

Anti は Malek Family の村である。第 1 に、Malek Family は、典型的な joint family の構成をもつ。いま図 2 によって、IB Malek (以下 M と略称) の家族を例にとろう。IBM 家族は 4 人の既婚の息、AIM, MIM, HIM, と SIM のそれぞれとその子供達とによって、21 人の世帯構成をもつ。IBM は父親 BAM より 3 acres を相続 (父 BAM は所有耕地 9 acres を IBM, MBM, BBM に均分に分配)。RSM より婚入の妻は、兄弟なくその遺産を相続、現在 26 acres を 21 人の世帯員により共同耕作する。このような共同耕作の事例は、BBM と叔父の BUM, その 2 男 ABM とそれぞれ居住家屋を別にしてはいるが、3 世帯によって 10 acres を共同耕作、また BAM の妹の婚出先 JRM の長男 MJM と 2 男 AJM とによる 6 acres の共同耕作にもみられるように、joint family の典型といえることができる。そして長子から次々に居住家屋を別にして、残る末子と親が同居する世帯が多い。

第 2 に指摘されるのは、Malek Family における高率の村内、Malek Family 内の婚姻である。図 2 の事例では、AIM の妻が Itola (Anti からの距離 20 マイル、以下数字は Anti からの距離をしめす) の Jadav Family (以下 F と省略)、RJM の Itola, Jadav F., BBM は AIM の妻の妹と婚姻、HBM の Kora (9) の Pathan F., MRM の Deghan (25) の Malek F., その長男の Dahbe (15) の Malk F., 2 男の Kora の Pathan. F., HNM の Jantran (20) の Khilji F., BAM の Khandali (20) の Khilji F. とを除いては、すべて村内の Malek Family 内の婚姻である。この村外の婚入先の範囲と限界については後にふれる。

このような高率の村内 Malek Family 内の婚姻は、当然高率の近親婚を生みだしている。HIM の長男の FBD, SIM の妻は兄 HIM の妻の弟の娘であり、MJM は MBSD を妻にする。これらの近親婚の上に、各 Malek Family 間の関係が、図 2 でいえば PRM の長女と 3 女の婚出先が、後にふれるように、問題となる。図 2 の Malek Family はじつは村外からの婚入のむしろ多い事例であることは、図 3 と比較すればあきらかであろう。そしてさらに、ARM の 3 女は SB Saiyad に婚出、NBM に婚出した 2 女の長女が、この SBS の長男に、MZD として





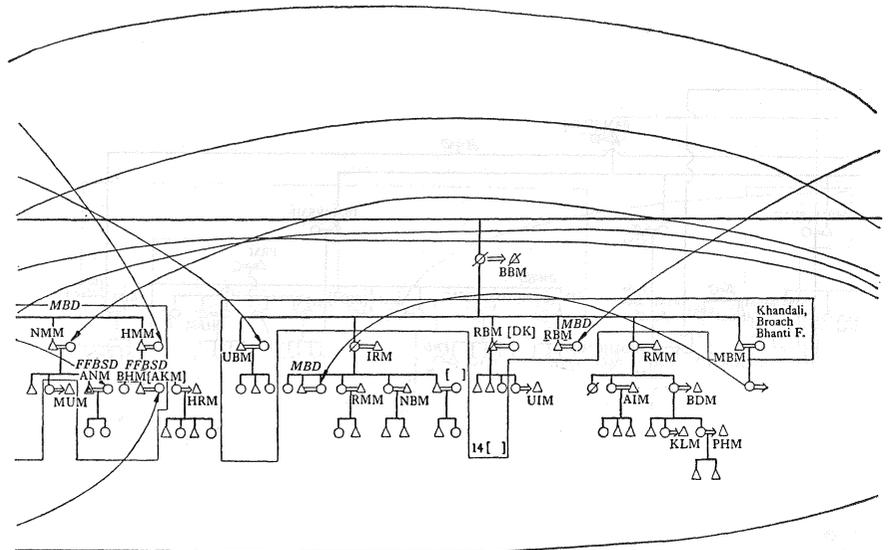


图 3-5

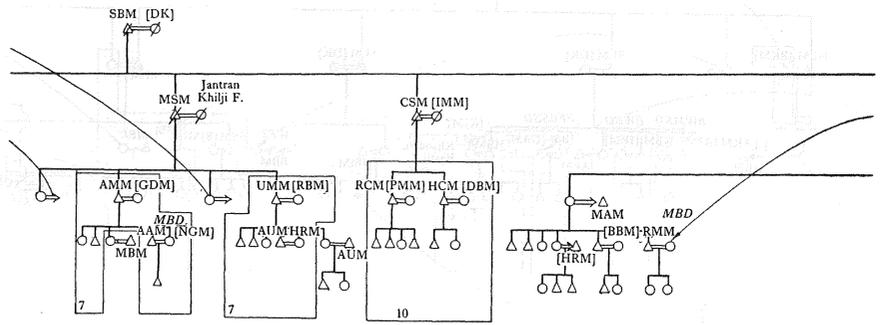


图 3-7

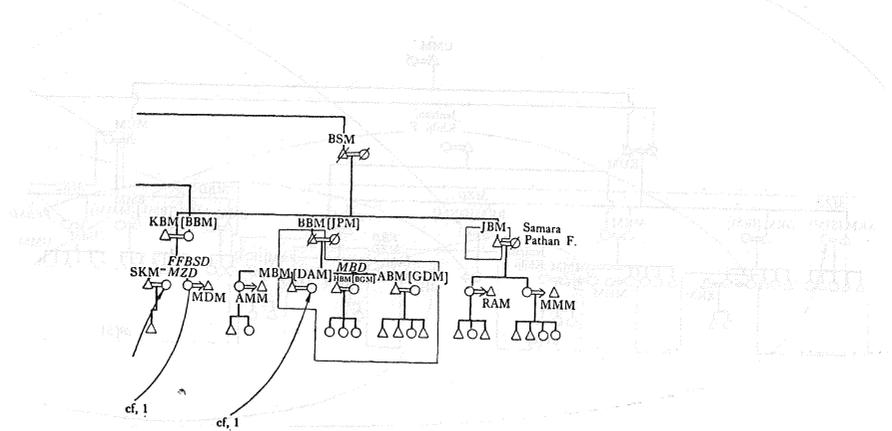


图 3-9

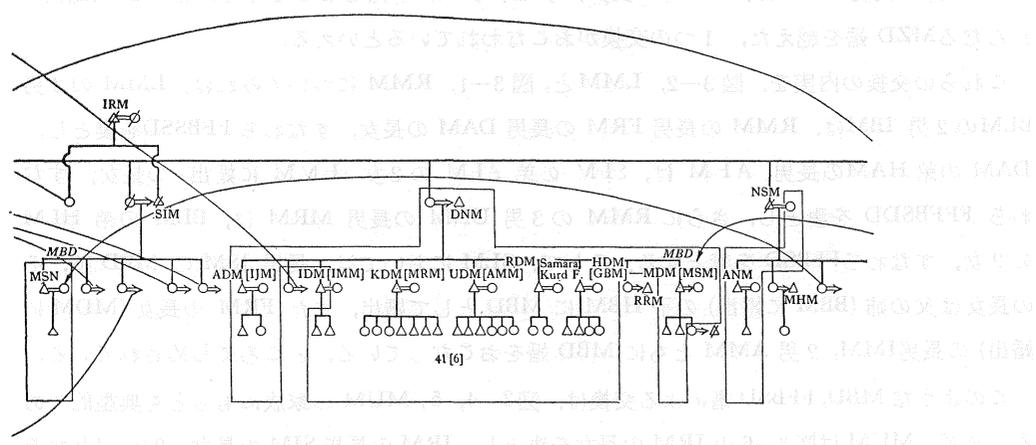


図 3-6

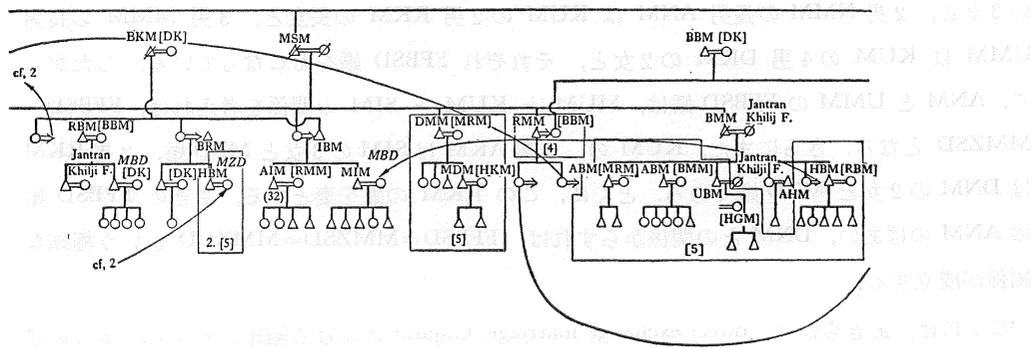


図 3-8

婚出する。Anti の Malek Family は Saiyad Family に女子を婚出させるが、Saiyad Family から女子を婚入することはない。この Malek Family の他のムスリム各家族との関係については、後にふれる。

図 3-2, LM Malek と図 3-7 の SB Malek との事例をとりあげよう。まずさきの図 2 の IBM の家族と図 3-2 の LMM の家族との関係は、LMM の弟図 3-1, RMM の長男 FRM の 3 男 HAM が PRM の長女を妻とし、さらに LMM の長男 SLM の妻の兄図 3-3, BMM の家族との関係は、長男 RAM の 2 男 MAM がさきの PRM の 3 女を妻としていることのほかに、関係はない。ここにおける関係は、娘を与える一方的な関係である。しかし、図 3-9, SBM の長男 BSM の 2 男 BBM の 3 男 MBM は、さきの図 3-1 の FRM の長男 DAM の 3 女を妻とし、BBM の弟 KBM の長女が、DAM の長男 MDM の妻である。同様な事例は、

図3-2, LMM の末子 HLM が BSM の弟 図3-8 MSM の長女の夫, IBM の妹を妻とし, IBM の妹の長男 HBM は, HLM の長女, すなわち MZD 婚をおこなっている。こゝには, たんなる MZD 婚を越えた, 1つの交換がおこなわれているといえる。

これらの交換の内実を, 図3-2, LMM と, 図3-1, RMM についてみれば, LMM の3男 BLM の2男 IBM は, RMM の長男 FRM の長男 DAM の長女, すなわち FFBSDD を妻とし, DAM の弟 HAM の長男 AFM は, SIM の弟 AIM の2女 (FMM に婚出) の長女, すなわち FFFBSDD を妻とし, さらに RMM の3男 UNM の長男 MRM は, BLM の弟 HLM の2女, すなわち FFBSDD を妻とする。そして, SLM においては, 長男 JSM の MBD 婚, その長女は父の姉 (BBM に婚出) の子 HBM に MBD として婚出, また FRM の長女 (MDM に婚出) の長男 IMM, 2男 AMM とともに MBD 婚をおこなっている, ところにしめされている。

このような MBD, FFBSDD 婚による交換は, 図3-4, 5, MUM の家族にもっとも典型的である。まず, MUM は図3-6の IRM の長女を妻とし, IRM の長男 SIM の長女, 2女, 4女がそれぞれ, MUM の2男 NMM, 3男 MMM, 6男 BMM に, MBD として嫁している。したがって, MUM と弟 KUM と, そして SIM との関係からすれば, このばあい, MBD=FBWZD となる。そして, 次の世代, MUM の, 長男 HMM の長男 BHM は, KUM の長男 AKM の3女と, 2男 NMM の長男 ANM は KUM の2男 RKM の長女と, 3男 MMM の長男 UMM は KUM の4男 DKM の2女と, それぞれ FFBSDD 婚をおこなっている。したがって, ANM と UMM の FFBSDD 婚は, MUM と KUM と SIM の関係を考えれば, FFBSDD=MMZSD となる。さらにまた, KUM の, 5男 AKM は SIM の3女と MZD 婚, 2男 RKM は DNM の2女と MZD 婚である。とくに, この RKM の娘を妻とする, さきの FFBSDD 婚の ANM のばあい, DNM との関係からすれば, FFBSDD=MMZSD=MMZDD という極端な関係が成立する。

こゝには, あきらかに, direct exchange marriage, Gujarat における結婚, «satu» がしめされている。この exchange marriage は Anti では Malek Family のみにみられるものである。それは Malek Family に限って dowry が Rs. 51 と慣習的にきめられていることからもうかゞえる。Rs. 51 の根拠については, あきらかにすることはできない。この Rs. 51 は婚約成立のさい, bride の家から bridegroom の家に渡されるものであって, いわゆる dowry, または hunda といわれるものではない。そのほかに, 世帯道具のその他はすべて bride 側の負担である。bridegroom の家として, まず一揃いの衣服と若干の装身具を贈るのみである。Anti の Malek Family の結婚は, このように, 第3に典型的な exchange marriage であるということである。この Malek Family における exchange marriage が全体としてどのようなものであるか, さきに誌した事情によって, Malek Family 全体の marriage statistics をえることはできなかった。こゝで, 図2, および図3と, 他に genealogical chart を作成しえた Malek Family の資料から, 総計 387事例の婚姻をとりあげてみよう。表7によって, 387事例のうち, 339事例が村内婚である。この 339事例の村内婚のうち, 他家族, すなわち Saiyad Family へ婚出の事例わず

表 7

村内婚 Malek Family 内	287
近親婚 Saiyad Family に婚出	51 (50)*
村外より婚入	2
	48
	計 387

\* 51 のうち Saiyad への婚出の事例 1 をふくむ

表 8

MBD	26
MZD	7 (うち 1 が Saiyad へ婚出の事例)
FBD	3 (うち 1 は FBD=MZD)
WFZ	1
MZDS	1
MBSD	1
BWBD	2
FFBSD	5 (うち 1 は FFBSD=MZD)
MMZSD	1
BWMBD	1
FBDHZ	1
FFBSSD	1
FFBSSDD	1
計	51

かに 2 をのぞいた 337 事例は、すべて村内 Malek Family 内の婚姻、337 事例のうち 50 事例は、確定しえた近親婚の事例である (表 8 参照)。こゝには東ベンガルにみられた<sup>3)</sup>、ムスリム特有の patrilineal cousin marriage は意外に少い。FBD 3, うち 1 例は FBD=MZD であり、FFBSD の事例 5, うち 1 例は MZD に一致するものであり、FFBSSD, FFFBSSDD それぞれ 1 例をみいだすのみであり、全体の半数は MBD, 26 事例がしめている。このようなムスリム村落における cross-cousin marriage の優位は、Malek Family 内における exchange marriage を物語っている。Malek Family から他家族、こゝでは Saiyad Family への婚出が 2 例、みいだされるのみであり、Saiyad Family から Malek Family への婚入の事例は、Anti における Malek Family にはみいだされない。

同時にまた、Malek Family から村外への婚出もまたみいだされない。すべて村外からは Malek Family にとっては、婚入の事例のみである。表 9 にみられるように、村外といっても、Baroda, Amod, Broach の District に限定され、Anti からの距離がせいぜい 20 マイルを越えることは稀である。そして婚入する家族は、表 10 のごとき家族にはっきりと限定されている。Malek ほか Khilji, Pathan, Kurd などの家族は、Anti の Malek Family への bride の供給源とはなっても、Anti の Malek Family から bride を受けいれることはない。さきに誌したように、隣接村 Sadhi あるいは Ramupipur の Malek Family も、Anti の Malek Family とは通婚をの

表 9

## 村 外 婚 入

地 域	家 族 名	事 例 数
Jantran (20)	Khilji	9
"	Malek	3
Khandali (20)	Khilji	6
"	Bhanti	2
Dehgan (25)	Malek	5
"	Khilji	2
Samara (15)	Kurd	4
"	Pathan	1
Itola (20)	Jadhav	4
Palej (22)	Malek	4
Kisnad (20)	Pathan	2
Dabhe (15)	Malek	2
Kora (9)	Pathan	2
Thankair (20)	Malek	1
Miyagam (8)	Kurd	1
	計	41

( ) 内は Anti からの距離：マイル

表 10

家 族 名	事 例 数
Malek	16
Khilji	16
Pathan	5
Kurd	5
Jadhav	4
Bhanti	2
計	41

ぞいても communication はみいだされない。このことは、Anti の Malek Family における exchange marriage のよってきたる理由をも示唆していると考えられる。なぜならば、村内においても、Malek Family は Saiyad Family に婚出しても、Saiyad あるいは他家族からの婚入は存在しないからである。こゝには婚姻規制が結果として家格の維持を果たしている。このような形の通婚による家格の維持はまた quasi-caste の機能でもある。Malek Family が exchange marriage によって quasi-caste を構成しているかどうか、Anti における Malek Family 以外のムスリム家族の婚姻をみよう。

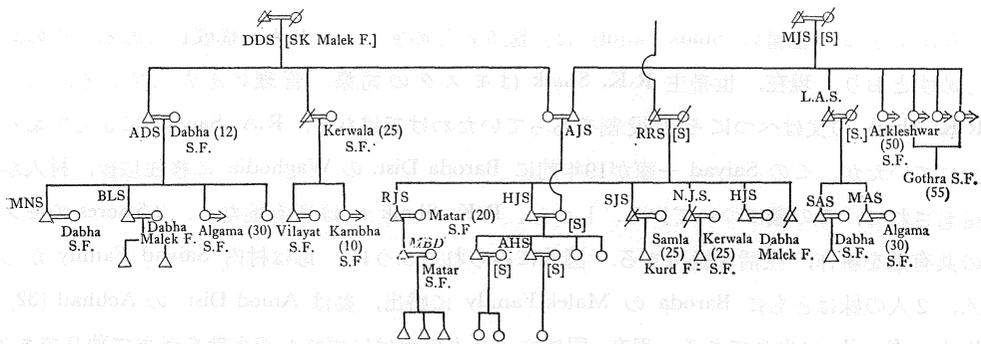
## 3

さきにふれたように、Anti のムスリムには Malek Family のほかに、Saiyad, Shaikh, Diwan

の諸家族が居住する。これらの家族は Malek Family に比して、いずれも Anti のムスリムのなかの minority group である。のちにふれるように、いずれの家族も、農業経営からみて Malek Family よりも一段と低い。いま、AB Saiyad を例にとれば、現在7世帯を構成するが、表11、BLS と UBS とは同居して17人の構成員でわずかに 4 acres を耕作するのみであり、KLS,ALS も耕地なく耕作労働者である。この7世帯で配偶関係21を数えるが、うち8例は cousin marriage である。FBD 1, MBD 3, MZD 1, MZS 1, FFBSD 1, FMBDS 1 である。このうち AB Saiyad Family 内の FBD と、Broach Dist. の Badalpura (50) の Saiyad Family への FMBDS 婚をのぞいては、すべて6例ともに Broach Dist. の Vilayat (42) の Saiyad Family との婚出入である。総数21事例のうち、村内の Saiyad Family との婚出入はわずかに 4,12例が Vilayat の Saiyad Family との婚姻である。

表 11

AB Saiyad	構成員	耕作地
HLS	15	2
BLS } UBS }	13 } 4 }	4
SLS	8	1
KLS	1	—
ALS	6	—
SLS	7	2



S.F.; Saiyad Family

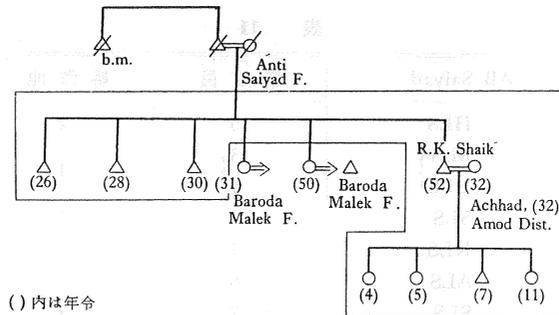
[S] 村内の Saiyad F.

図 4

Saiyad Family の婚姻について、DDS, RRS, MJS の3家族を例にとれば、図4のように、DDS は村内の Malek Family から、RRS と MJS は村内の Saiyad から、DDS の子 ADS は Broach Dist. の Dabha (12) の Saiyad, その子 MNS も同地区、しかし弟 BLS は同じ Dabha の Malek Family から、それは RRS の子 HJS も Dabha の Malek から妻を迎えている。HJS の一家はすべて村内の Saiyad Family からであるが、RRS の子 SJS は Baroda Dist. の Samla (25) の Kurd Family からである。さらに MJS の3人の娘は Baroda Dist. の Gothra (55) の

Saiyad Family に婚出する。この Gothra の Saiyad Family へは婚出はできるが、Gothra の Saiyad から妻を迎えることはないことになっている。

いま、さきの AB Saiyad, 図4の Saiyad に他の Saiyad Family を加え、調査事例55配偶関係から Saiyad Family の婚姻をみれば、およそつぎのようにまとめられる。第1に、村内婚は Malek Family からの婚入はあっても婚出はなく、他の村内婚はすべて Saiyad Family 内でおこなわれる。しかしその率は低い。第2に、村外婚のばあい、少数の Dabha の Malek, Samla の Kurd の各家族との婚出入をのぞいては、すべて Saiyad Family との婚出入である。この Saiyad Family のうち、とくに婚出入のおこなわれる Vilayat や同じ Dist. の Algama (30) のごとき地域と、Gothra のように婚出はさせるが婚入はない地域、とにわかれる。第3に、村内よりも、むしろ Vilayat の Saiyad Family との間に cousin marriage がおこなわれている。



( )内は年齢

図 5

Anti にたゞ1世帯の Shaik Family は、図5にしめすとおり9人の構成員である。その名のしめすとおり、現在、世帯主 R.K. Shaik はモスクの司祭、管理にあたっている。しかし R.K. Shaik の父はべつにその役割をもっていたわけではなく、R.A. Saiyad によっておこなわれていたが、この Saiyad 一家が19年前に Baroda Dist. の Waghodia に移住以後、村人から指名されて、この職についている。しかし、R.K. Shaik には所有地なく、2.5 acres のモスクの共有地を耕作、生活を維持する。図5にみられるように、母は村内 Saiyad Family から婚入、2人の妹はともに Baroda の Malek Family に婚出、妻は Amod Dist. の Achhad (32) の Pathan Family の出身である。現在、同居する3人の弟はいずれも適令期を過ぎて独身である。夫妻の年齢差にもうかがえるように、こゝでは Malek Family などと異なり、bride price が問題となる。まず Rs. 7~800 から Rs. 2,000 までを支払わねば結婚は不可能である。妹の婚出にもかゝらず、3人の弟の独身はこのためである。Shaik Family の通婚は、村内の Saiyad, 村外の Malek, Pathan Family との通婚である。

Diwan Family 8世帯のうち、Dosti Diwan の家族を図6にとりあげよう。現在、i) MSD, ii) RSD, iii) MSD, iv) RKD と MSKD の4世帯、MISD の家族は IMSD と同居する。i, ii, iii, iv の4世帯で全耕作地わずかに 2 acres, 0.75 acres を自耕、残りの 1.25 acres を laborer に耕作させ、収獲の50%をとり、それを4等分することによって生活する。たゞし耕作をさせる

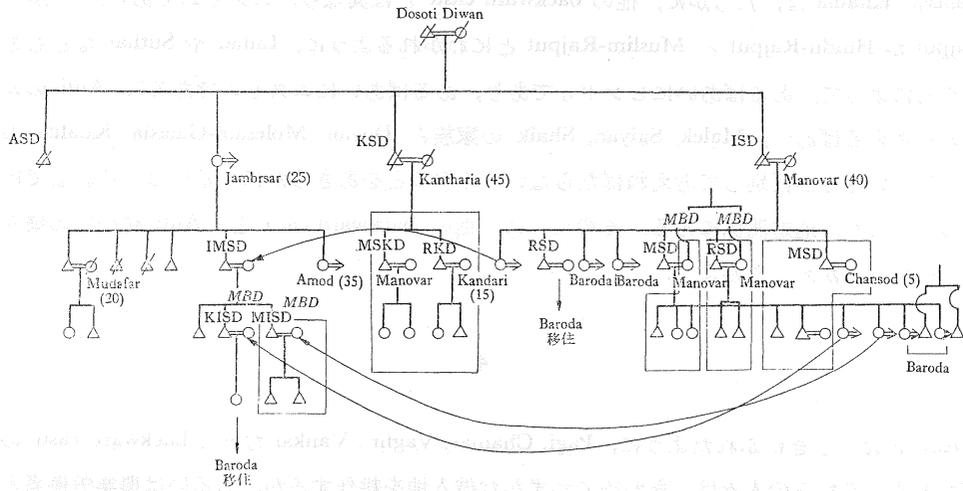


図 6

ばあい、農機具、肥料は laborer もちである。のちにふれる他の backward caste と生活はほとんど変りなく、他の Diwan の家族もシン 1 台の村の tailor をのぞいては、すべて土地をもたない農業労働者である。それは図 6 の RSD のとき Baroda への転出、あるいは Baroda へ婚出した姉の子供達世帯の Ahmedabad への転出のように、下層の都市工場労働者を生みだしていく。

図 6 にみられるように、Diwan Family の通婚の範囲は、Broach Dist. の Manovar (40), Kantharia (45), Jambhsar (25), あるいは Baroda, Amod (40) など、すべてこれらの地区の Diwan Family との間の通婚である。他の Diwan Family についても同様であるが、とくに Manovar の Diwan Family との通婚が多い。図 6 にしめされるように、RSD と MSD の妻は Manovar からの MBD としての姉妹であり、MSKD の妻は ISD の妻の BSD にあたっている。MISD と KISD の妻はともに MBD=FMBS D であり、MSD の 2 人の娘はともに Baroda の兄と弟に婚出する。このような Diwan Family における結婚には、dowry もなく、2 pairs の衣類 (1 pair とはサリー 1, ブラウス 1, ペティコート 1) と 1 組の足環、あるいは腕環を bride から持参するのみ、bridegroom 側からは何も bride 側には贈らない。Diwan の人々によれば、現在まで Anti 村内で婚姻関係を結んだことはないが、それが禁止されているわけではない、という。しかし、Malek の人々から、Diwan の人々についていえば、Diwan とはまったく通婚関係はない、かれらは begger をするから、と指摘する。

Anti のムスリムには、ほかに Molesam-Galasia 2 世帯と Khalifa 1 世帯が現住する。Molesam-Galasia の家族は、約 5 acres を借地耕作の 10 人の家族と、4 人家族で 50 頭の goats を追う milkman の 2 家族であり、すべて他村の Molesam-Galasia との通婚である。Khalifa の家族は 1 年前に移住してきた barber である。Malek Family の解釈によれば、Khalifa は Khalifa とのみ、Molesam-Galasia は、ほかに Shaik と通婚する、と指摘する。Anti の Diwan, Molesam-

Galasia, Khalifa は、たしかに、他の backward caste とは異なり、ムスリムである。しかし、Rajput が Hindu-Rajput と Muslim-Rajput とにわかれるように、Luhar や Suthar などまたところによって、あるばあいにはヒンドゥーであり、あるばあいにはムスリムである<sup>4)</sup>。Anti のムスリムを考えるばあい、Malek, Saiyad, Shaik の家族と Diwan, Molesam-Galasia, Khalifa の家族とは、いささか区別して考えねばならない。そのことをあきらかにするのは、これまでにあきらかにした、通婚関係にある。そのために、他の backward caste と、Anti 村全体の構成をもう一度ふりかえてみよう。

## 4

Anti には、さきにふれたように、Pagi, Chamar, Vaghri, Vankar などの backward caste の世帯がある。これらの人々は、きわめてわずかな借入地を耕作するか、あるいは農業労働者として1日 Rs. 1.50 から Rs. 2.00 の賃銀をうるか、によって生活を維持している。労働者として、この賃銀のなかには、食事はふくまれていない。この生活の苦しさからか、つぎつぎに小さな家族に分解して、既婚の兄弟が同居する例は少ない。いま、これらのカーストの通婚範囲を、表12からみれば、きわめて狭い範囲の通婚であることがしめされている。表12は、面接した Pagi 3, Chamar 2, Vaghri 2, Vankar 4 の各世帯における婚出入先の村名である。Anti 村内婚は、Vankar 22事例中にたゞ1例をみるにとどまる。総計48事例のうち、婚出入先の地区名が重なっているのは、Pagi と Vankar の Muwar の事例のみである。

表 12

Pagi			Vaghri		
Kanva	(10)	5	Khanda	(7)	1
Muwar	(3)	2	Ghroyad	(2)	1
Veran	(8)	1	Kankhari	(9)	1
Guyaj	(4)	1	Vankar		
Bhoj	(4)	1	Muwar	(7)	4
Chamar			Vadu	(5)	3
Dashrath	(21)	2	Vadla	(5)	2
Baroda	(15)	2	Wavarnama	(10)	2
Ranupipri	(2)	2	Muhuwada	(4)	1
Dhawati	(15)	1	Nishra	(15)	1
Dakhosi	(15)	1	Hunthia	(15)	1
Kia		1	Kurai	(10)	1
Jalarpura	(4)	1	Narshimi	(3)	1
Padra	(7)	1	Ranu	(2)	1
Phopharia	(28)	1	Rajpura	(3)	1
Jambrsar	(25)	1	Goyapura	(3)	1
Kavali	(12)	1	Prapura	(6)	1
			Kosindra	(8)	1

( ) 内は Anti からのマイル数

ことわるまでもなく、これらのカーストにおいても、このような狭い通婚範囲のなかで、厳密な endogamy がおこなわれている。そして、結婚には、それぞれつぎのような慣習をもっている。Chamar においては、Rs. 51 をいかに bride の父が貧困でも bridegroom 側に支払わねばならない。Chamar の informant, Natvar Becharbhai Chamar (23才) のばあい、Rs. 51 と 1 個の金指環を bride 側からうけとり、Rs. 45 とサリー 2、銀足環 1、金腕環 1 を bride に贈っている。こゝには、さきにふれた Malek Family の Rs. 51 の影響があきらかである。Vaghri のばあい、逆に、bridegroom 側は、bride 側に、Rs. 100——少し前までは Rs. 22.50——と、1 pair の衣服を贈らねばならない。たゞし ornament は贈る必要はない。それにたいして、bride 側は、Vaghri の習慣として、dowry もなく、kanyadana=utensil も一切準備する必要はない。informant, Dhura Paja Vaghri のばあい、bride 側に、Rs. 115、1 pair の衣服、靴、ガラスの腕環を与えている。Vankar については bride price, peharawani がある。近時最低 Rs. 100、それに 1 pair の衣服と装身具類である。それにたいして、bride 側は、形式的に Rs. 15~20 を bridegroom 側に、その他 utensil を用意することとなっている。informant, Madao Murar Vankar (70才) のばあい、bride price は当時 Rs. 25 であった。他の informant, Koya Narotam Vankar によれば、Rs. 200 と腕環、耳環、足環と 1 pair の衣服を出し、bride から Rs. 20 に kanyadana をうけとっている。この bride price は、bride 側の要求によって決定される。bridegroom 側に支払い能力のないばあい破談となる。これらのヒンドゥの backward caste の人々の結婚は、あきらかにさきの Malek Family を中心とする結婚、“satu”とは異なっている。

Anti を通婚関係からみれば、およそつぎのようになる。Malek Family は、ほとんど村内の Malek Family 内の結婚が多いが、村外では Malek, Khilij, Pathan, Kurd の諸家族から婚入するが、これらに婚出することはなく、村内では Saiyad に婚出するが、Saiyad からの婚入はない。Saiyad Family は、むしろ村外婚が多く、その多くは Saiyad Family との通婚であるが、ほかに Malek, Kurd の家族と通婚する。村内の Malek からは、さきのように、婚入はあるが婚出はなく、Shaik への婚出があり、村外では Gothra の Saiyad には婚出はあるが婚入はない。Shaik Family は、村外の Malek、村内の Saiyad からの婚入がある。Diwan Family はまったく Diwan Family との通婚であり、他の村内のムスリム家族との通婚はまったくみられない。このムスリムの人々に、さきにふれた backward caste の人々が従属した生活を送っている。

いま、これらのムスリム家族を、“existing caste”<sup>5)</sup>と考へ、さきの通婚関係を“hypergamy”としてとらえれば、たしかに Shaik, Saiyed, Malek, Diwan という順序に、quasi-caste が成立する。しかし、これらの家族をカースト、あるいはカースト化と考へるのは、いささか問題がある。なぜならば、Saiyad のばあい Gothra の Saiyad が Anti の Saiyad よりも上位にあると考へることはできる。しかし、Malek のばあい、Anti の Malek Family は、他村の Malek よりも上位ではあっても、Khilji, Pathan, Kurd などの諸家族よりも上位にある、とは考へられないからである。たしかに、Anti の Malek Family は、任期 3 年の選挙による（選挙、被選挙権

ともに21才以上，前回投票率，男85%，女40%，再任可能) surpanch を現在まで独占し，Agricultural Cooperative Society の同じく選挙による役員7人も独占する．しかし，これらは Malek Family がカースト化したのではなく，文字通りに，“Gujarat の家族”として，status-giving group の1つを形成しているからにはほかならない．さきにふれたように，Anti は周囲をヒンドゥーにとり囲まれた，孤立したムスリム村落として，Malek Family は，“.....Thus, family is a great status-giving group..... that is why a boy is urged in many communities, especially the Rajputs of Gujarat, to keep up the prestige of the family, kulni laj rakhje.”<sup>6)</sup>として生活しているからである．このことが Malek Family における結婚，“satu”を説明する．

## 5

いま，Tulka Panchayat Padura の Land Taxes Register<sup>7)</sup>によって，Anti のカースト別所有耕地をみれば，表13のとおりである．村の耕地の大部分を Malek Family が独占し，この農地にさきにふれたヒンドゥーの backward caste が労働者として雇傭される．いまこの2つの high status group と low status group を比較してみよう．通常 dowry は high status group の，bride price は low status group の慣行である．たしかに，さきにみたように，backward caste，たとえば Vaghri にしても，Vankar にしても，Rs. 100~200 の bride price がみられる．しかし，high status group，Malek のばあい，dowry とはいえない Rs. 51 という形式的金額の bride 側

表 13

カースト	総面積	平均	世帯数
	acre		
Malek	1708.26	7.20	228
Saiyad	14.38	4.39	3
Pir*	21.35	10.38	2
Pagi	49.33	3.32	13
Wankar	19.36	1.21	13
Vaghri	4.39	1.26	3
Vangi**	6.38	2.13	3
Patel	14.27	4.36	3
Harijan	1.14	—	1
Chamar	1.03	—	1
Suthar	3.06	—	1
Brahman**	17.32	—	1
Luhar	1.39	—	1
Mir**	2.29	—	1
Molar**	0.12	—	1
Jadav**	3.19	—	1
A.M.Gibaeva**	21.32	—	1
計	1895.20	6.34	277

\* は共有地 \*\* は村外所有者

からの贈与金によって、“satu”がおこなわれている。典型的な南 Gujarat の商品農業地帯——ポルトガル人による afus の導入以来——富裕なマンゴ地帯では、経済力の上昇による dowry は多くの hypergamous の関係をカースト内における status group 間に引き起している。このばあい、low status group においては、bride price の代用として satu または exchange marriage がおこなわれる<sup>9)</sup>のである。Anti の Malek Family のばあい、むしろ逆に dowry の代用として、“satu”がおこなわれているということが出来る。

表 14

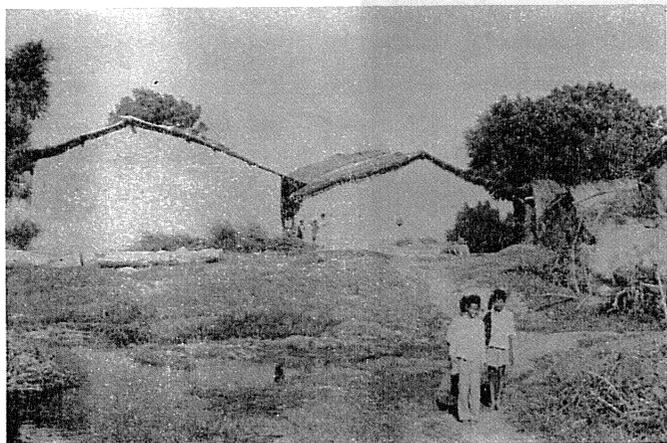
産 物	Gujarat maund/ 1 acre	作 業 期
Rice	25	JAN-SEP
Bajara	30	JUN-SEP
Wheat	10	SEP-DEC
Juwar	15	JUN-FFB
Cotton	12	JUN-DEC
Pulse	12	JUN-DEC

Anti にはマンゴもタバコも産出されない。主な収穫物は表 14 のごときものに限られ、主要作物は cotton である。1 世帯あたり平均年収入 Rs. 2000, 耕地平均 4 acres, 農業労働者の日額収入 Rs. 2.50 にすぎない。たしかに、土地所有の有無、カーストのいかんにかゝりなく、share Rs. 10 をもとめれば Agricultural Cooperative には入会することができる。しかし、融資をうけうるのは土地所有者のみに限定されている。ほゞ40年前に語られた Dr. J.M. Mehta のつぎの言葉は、いまでもそのまゝである。“What Gujarat needs today is an organised effort to solve the problem of rural poverty. Without organisation it is impossible to achieve success in any field. There are very important questions to be tackled. With an increase in the population, the problem of poverty is likely to become more acute unless efforts are made to increase the productivity of land. Holdings are becoming smaller and smaller, and the ryots are everywhere in debt. Money is extravagantly spend on marriages while land is being starved for the want of manure, good seeds and working cattle.”<sup>9)</sup> Anti には近年いちじるしい Baroda の都市化からの影響は及んではない。さきの南 Gujarat, Bulsar Taluka の Haria<sup>10)</sup> のような、crop-pattern の変化もまた期待できない。Haria においては、新しい cash crop の導入が村の全経済機構を変化させて、intercaste の関係——地主の lower caste への統制の弛緩、lower caste における Sanskritization——の変化を惹きおこしている。そして、この新しい変化への適応によって、かえって joint family は強化される<sup>10)</sup>。Anti のばあい、新しい変化ではなく、ヒンドゥーにたいするムスリムの“deffence mechanism”が、spirit of jointness を生み、通婚のサークルを固定し、カースト化を恐れて、titled family を維持強化させる。ヒンドゥーのゆえに、Anti はムスリムの村として、“satu”をつゞけながら、ますます孤立化をふかめていく。

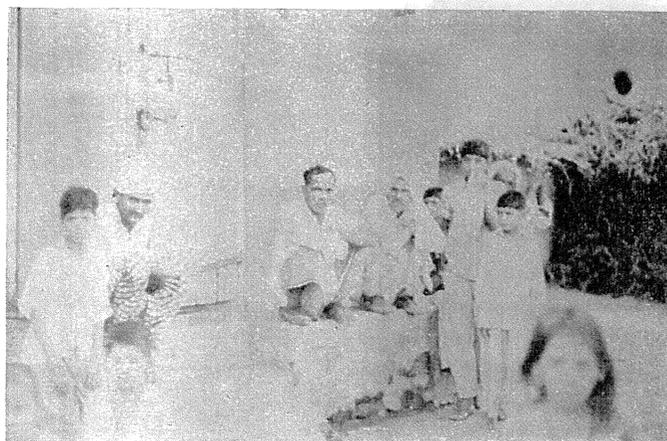
## 註

- 1) Census Report, 1961, Government of India, Gujarat.
- 2) Mehta, R.N., "Archaeology of the Baroda ; Broach and Surat Districts upto 1300 A.D." (mimeograph), 1957, p. 110.  
 なお, Anti と Sadhi のこのような記述については, Krishnakumari, J. Virji, Ancient History of Saurashtra, 1955, p. 294 および p. 310 に見られる。
- 3) 9頁
- 4) Misra, S.C., Muslim Communities in Gujarat, 1963, pp. 69-77.
- 5) Ansari, G., Muslim Caste in Uttar Pradesh, 1960, p. 35
- 6) Naik, T.B., "Family in Gujarat," Journal of Gujarat Research Society, XV (1953), p. 131.
- 7) この Register による総耕地 1,895.20 acres は他の調査 1,931 acres からみても, かなり正確であろう。Janaki, V.A. and Sayed. Z. A., The Geography of Padura Town, 1962, Table VIIA, p. 16. ただし所有者別にはかなり問題があることは, 調査期間中, 徴税に遭遇し, 紛争を通じて体験した。
- 8) Joshi, V.H., Economic Development and Social Change in a South Gujarat Village, 1966, p. 21.
- 9) Mehta, J.M., A Study of Rural Economy of Gujarat, 1930, p. 231.
- 10) Joshi, op cit., pp. 115-6.

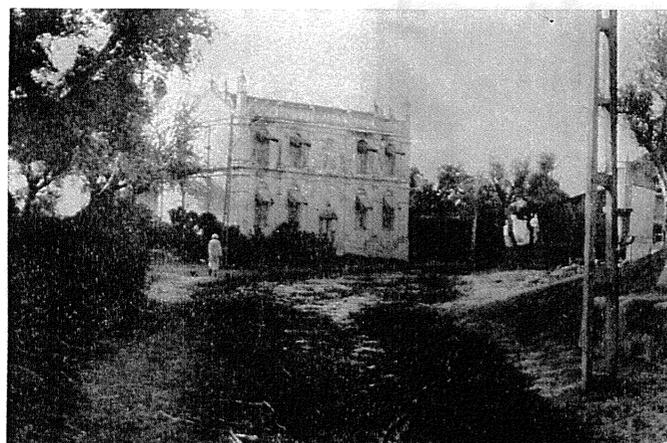
本調査にあたって, 何時ものことながら多くの人々の御援助をえた。とくに Baroda 大学の考古学 R.N. Mehta 教授, その下に留学中の新井俊一氏, 社会学 K.C. Panchanadikar 教授, Baroda Health Musium Mr. J.C. Kavoori, Anti 村小学校 Master, A.G. Malek, とくに, 調査期間中通訳として Baroda 大学大学院 Mr. A.S. Navle, 同行した大阪大学大学院山本剛郎君ほか, 多くの方々の御好意と御援助にたいして, ここに誌して厚く謝意を申しあげたい。



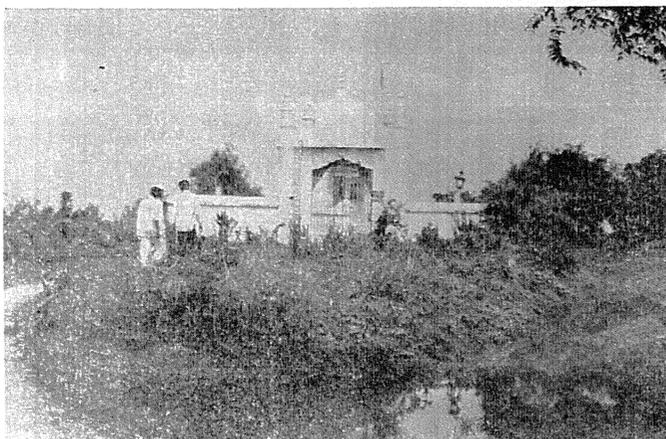
1 Anti 村口



2 Agricultural Cooperative Society の縁



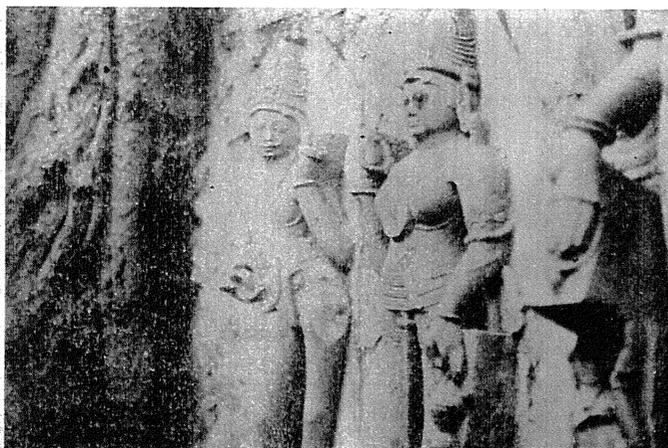
3 mosque



4 Pir を祀る



5 Malek の村



6 隣村 Sadhi にて

## II Muslim Community in Gujarat

Anti is a Muslim village which is located 15 miles north to Baroda. It is inhabited by 256 families, 189 Muslims and 67 Hindus, resulting in Muslim being 75% of the village. Muslim are, further, divided into four titled families, Malek, Shaik, Saiyad and Diwan, and Malek family is predominant in number amounting to over 60% of the Muslim. These four Muslim families live at the center of the village, while other people of backward caste surround the former as their employees.

Malek Family has the typical joint family which is characterized by endogamous marriage within community. Therefore, highly close inbreeding now persists among them. Among 387 marriage cases 339 are counted as endogamous marriage including 2 cases of outgoing into Saiyad Family within the same village. Confirmed 50 cases of inbreeding are made up by 26 MBD, 7 MZD, 5 FFBSD, 3 FBD and others. As for exogamous marriage we can find only some cases of incoming from the confined places out of Malek, Khilji, Pathan and Kurd families, but no outgoing. Concerning Saiyad Family, the aforesaid incoming from Malek Family is the only instance of the endogamous marriage and there is no outgoing. They rather prefer to marry those of the same family in the different villages, among which cases cousin marriage is observed. In case of Shaik Family they have incoming from Saiyad Family within the village and exogamous marriage with Malek, Pathan Families. Diwan Family unites marriage with the same family of another village in all cases. And as for exogamous marriage of these titled families, they have relation only with those of some confined area respectively.

In view of these marriage connections, it is seemed that quasi-caste relation is existing between the titled families. Looking into marriage connection between each of the titled families, for example, Malek's relation on marriage with Khilji, Pathan, Kurd families each, and further "satu" as a substitute for ruined dowry which is symbolized by dowry Rs. 51, however, it cannot be said that the relation between the titled families is a kind of quasi-caste.

It is rather proper to think that the isolated circumstances in which the Muslim is placed prompt them to limit their marriage circle and to maintain and reinforce their own family title, as a result of which "satu" (exchange of daughters) becomes prominent within each of the titled groups. MBD marriage found in Malek Family gives us a typical example, in which, as they are "status-giving group" in Gujarat family, MBD marriage is necessary for maintaining the titled group. It further deepens the isolation of Muslim community in Gujarat village.

